



環境配慮型高性能2液ウレタン塗膜防水材

プルーフロンエコHG カタログ

【第3版】

ハイグレードな塗膜防水を実現

JIS A 6021 建築用塗膜防水材
ウレタンゴム系高伸長形 認証品

MOCA
無配合

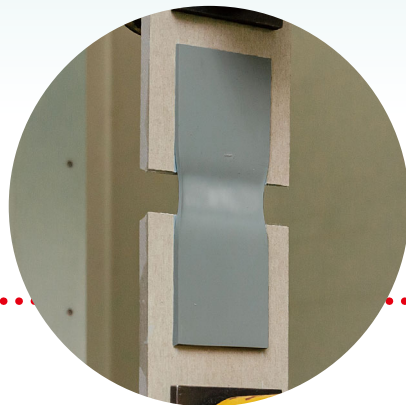
特化則・有機則
非該当

建設技術審査
証明書

ブルーフロンエコHGは、 高伸長・高抗張積・高引裂強さを有する、高性能な防水材です。

ブルーフロンエコHGは、JIS A 6021高伸長形に合格する高い伸びと高強度形の規格値を大きく上回る抗張積※、高い引裂抵抗性能を有する、破断し難く強靱な防水塗膜を形成します。

※抗張積とは……伸び(mm)×引張強さ(N/mm²)で求められる、塗膜破断をするためのエネルギー、耐久性を示す数値です。



特長

ハイグレードな塗膜性能

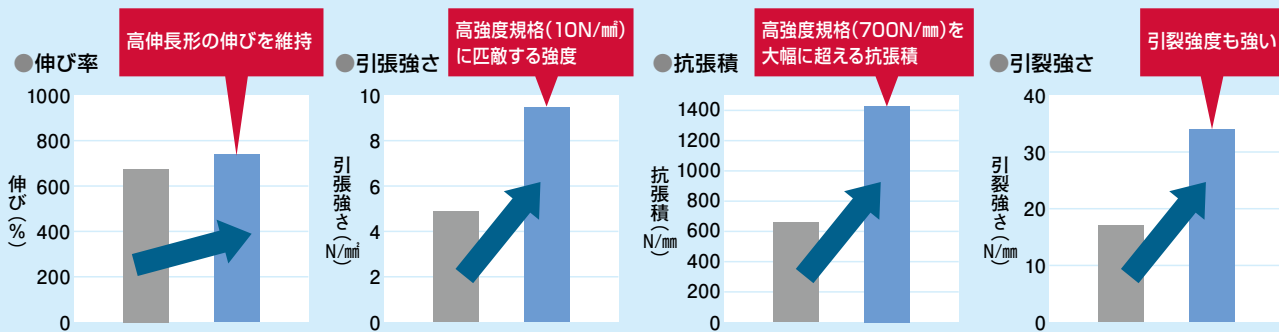
ブルーフロンエコHGは、高レベルな柔軟性と強靱性を兼ね備えたウレタンゴム系塗膜防水材です。

ブルーフロンエコHGは、高レベルな柔軟性と強靱性を兼ね備えたウレタンゴム系塗膜防水材です。その塗膜物性は、市販高伸長形ウレタンゴム系塗膜防水材を上回り、JIS A 6021高伸長形に適合し、JIS A 6021高強度形にも相当する性能を有します。抗張積はJIS A 6021高強度形の規格値700N/mmを大きく上回る物性値を有します。

抜群の高伸長・高抗張積・高引裂強さを発揮します。

■市販高伸長形ウレタンゴム系塗膜防水材との比較(23℃)

■ゴム系塗膜防水材 ■ブルーフロンエコHG



作業性向上

ブルーフロンエコHGは、クロスフリー工法が可能です。

ブルーフロンエコHGは、補強布を使用しなくても従来の補強布入り工法を上回る塗膜性能を有するため、補強布を張る作業が省略でき、工程の短縮につながります。

「建設技術審査証明」を取得しています。

ブルーフロンエコHG「PX-HG30」「PXTg-HG20」「PXT-HG20」工法は、「国土交通省公共建築工事標準仕様書および公共建築改修工事標準仕様書」に記載されているウレタンゴム系塗膜防水X-2(密着工法)平場および立上り部の工法と同等以上の防水性能があります。そのため、補強布張りの工程を省略化できる防水工法です。



▲建設技術審査証明書

色相

▲ニューグレー

●本標準色は印刷のため、実際の色とは相違があります。ご了承ください。

塗料性状

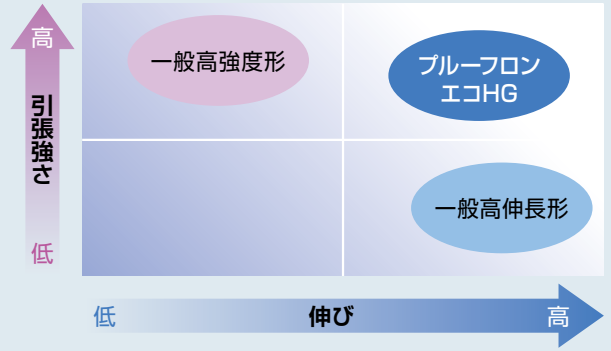
●ブルーフロンエコHG、ブルーフロンエコHG NS、ブルーフロンエコHG MID

配合比 主剤:硬化剤(重量比)	2:3
可使用時間(23℃)	40分以内
施工間隔(23℃)	18時間~72時間以内

防水材に必要な「ちょうどいいバランス」

防水塗膜は、強度が高く、伸びが小さいと建物の動きに追従しにくくなります。また、強度が低く、伸びが大きい場合でも、塗膜の変形が大きくなり、徐々に破断しやすくなります。そのため、補強布が必要となります。

ブルーフロンエコHGは塗膜の強さと伸びのバランスを適正化することで、破断し難い塗膜となるように設計しています。



高耐久性

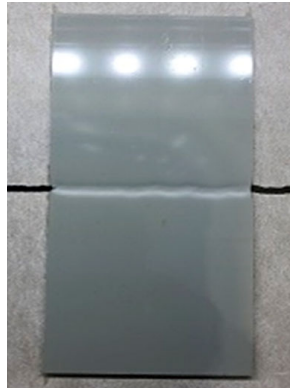
ブルーフロンエコHGは、高伸長形ウレタンゴム系塗膜防水材補強布入り工法と同等以上の耐久性を示します。

ブルーフロンエコHGは、補強布なしで JASS8 疲労試験 評価 区分4を示す高い耐久性があります。

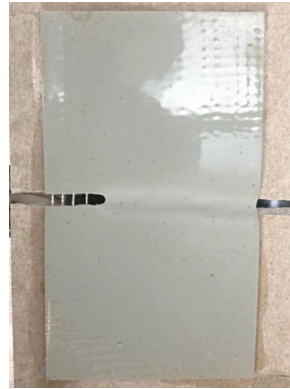
■疲労試験

区分	ステップ		I	II	III
	試験温度(°C)		20	60	-10
1	伸縮幅 (mm)	0.5~1.0	○	→○	→○
2		1.0~2.0	○	←○	←○
3		2.5~5.0	○	←○	←○
4	区分3 ステップⅢまで実施しても塗膜が破断しなかった場合。				

各区分の温度において10分周期で500回伸縮
合計4500回実施



▲ブルーフロンエコHG
密着工法 3mm厚さ
(評価:区分4)



▲市販高伸長形ウレタンゴム系
塗膜防水材
密着補強布入り工法 3mm厚さ
(評価:区分3~4)



▲市販高伸長形ウレタンゴム系
塗膜防水材
密着工法 3mm厚さ
(評価:区分3)

高い環境性能

ブルーフロンエコHGは、現在市販されているウレタンゴム系塗膜防水材の中でも高い安全性と品質を兼ね備えたウレタン防水です。

- MOCA無配合
- 鉛・クロム無配合
- 特定化学物質障害予防規則(特化則)非該当
- ホルムアルデヒドを含む13VOC無配合
- 有機溶剤中毒予防規則(有機則)非該当

荷姿

- ブルーフロンエコHG
20kgセット(主剤8kg、硬化剤12kg)
- ブルーフロンエコHG NS
20kgセット(主剤8kg、硬化剤12kg)
- ブルーフロンエコHG MID
20kgセット(主剤8kg、硬化剤12kg)



▲ブルーフロンエコHG



▲ブルーフロンエコHG NS



▲ブルーフロンエコHG MID

多彩な工法で、さまざまな用途に対応します。

■各種工法の概要

PM工法
[密着工法]
●掲載ページ……⑧

シームレスで複雑な形状にも施工できる一般的なウレタンゴム系塗膜防水材の密着工法です。

PM複合工法
[密着工法]
●掲載ページ……⑨

シームレスで複雑な形状にも施工できる工法で、柔軟性が高いブルーフロンエコDXやブルーフロンエコONE IIなどを組み合わせた密着工法です。

PG工法
[密着補強布入り工法]
●掲載ページ……⑩

均一に必要な膜厚を確保できる補強布入りの密着工法です。立上り部ではダレ防止効果があります。また、防水層の補強効果もあり、下地の経年変形による破断も低減できます。

PN工法
[通気緩衝工法]
●掲載ページ……⑪

国土交通省大臣官房官庁営繕部「公共建築工事標準仕様書」(令和4年度版)や日本建築学会 JASS8防水工事にも採用されている工法です。コンクリート下地と防水層が絶縁されているため、下地にクラックが発生しても防水層の破断が防止できます。また、下地水分が多い場合、通気緩衝シートの通気層を通して脱気装置から水分が放出されるため、防水層のフクレも防ぎます。

PK工法
[機械的固定工法]
●掲載ページ……⑫

下地処理が容易で、さまざまな下地に対応できる防水工法です。機械的固定のため、下地水分が多くても施工が可能です。また、既存下地のほとんどが撤去不要のため、廃材の発生も低減できます。

PKD工法
[機械的固定・断熱・遮熱工法]
●掲載ページ……⑬

機械的固定工法(PK工法)に断熱材を組み合わせ、さらに遮熱性を付与した工法です。

PD工法
[断熱・遮熱工法]
●掲載ページ……⑭

屋上からの熱を遮断し、室内への熱の侵入を防ぐとともに、建物の躯体を熱による劣化から長期にわたり保護します。遮熱タイプのトップコートを組み合わせることで高い耐久性が得られ、防水層をより強固に守ります。

PS工法
[スポーツ床防水工法]
●掲載ページ……⑮

ウレタンゴム系塗膜防水材と当社のウレタン塗布床材(ユータック)を組み合わせたシームレスのスポーツ床防水工法です。密着工法(PSM工法)と通気緩衝工法(PSN工法)があり、スポーツ施設や屋上の活用に最適な工法です。

工法記号の見方

用途・目的に応じた性能を付与できます。また、さまざまな組み合わせが可能です。

工法記号の例：

P M — HG 20 S

● プルーフロン全工法共通

● 工法の種類

M : 密着工法

MT : 密着立上り工法

G : 密着補強布入り工法

GT : 密着補強布入り立上り工法

N : 通気緩衝工法

K : 機械的固定工法

D : 断熱・遮熱工法

SM : スポーツ床密着工法

SN : スポーツ床通気緩衝工法

KD : 機械的固定・断熱・遮熱

H : 保護モルタル工法

HT : 保護モルタル立上り工法

F : 側溝・巾木・長尺シート複合工法

O : 室内簡易防水工法

X : 建設技術審査証明工法

XTg : 建設技術審査証明工法

XT : 建設技術審査証明工法

(下地が既存ウレタンゴム系塗膜防水材の場合の工法)

PF工法
[側溝・巾木・長尺シート複合法]
●掲載ページ……10

長尺シートを使用することにより、高い防水機能、防滑機能に加え、長期にわたり建物の美観を保持します。

PH工法
[保護モルタル工法]
●ブルーフロンシリーズ総合カタログをご参照ください。

浴室やトイレなど、RC構造下地の水廻りに使用する保護モルタル(別途工事が必要)工法です。屋上にも施工可能です。

PO工法
[室内簡易防水工法]
●ブルーフロンシリーズ総合カタログをご参照ください。

簡易防水工法で、さまざまな状況に応じた工法の選定ができます。また、環境配慮仕様も可能なため、室内防水にも適用できます。

PX工法
[建設技術審査証明工法]
●掲載ページ……67

建築技術審査で公共建築工事標準仕様書X-2と同等以上と証明されたクロスフリー工法です。

■ 部位による最適工法

◎：最適 ○：適

工 法	PM工法	PG工法	PN工法	PK工法	PDI工法	PS工法	PH工法	PF工法	PO工法	PX工法
	PM複合法 [密着工法]	[密着補強布入り 工法]	[通気緩衝 工法]	[機械的固定工法] PKD工法 [機械的固定 断熱・遮熱工法]	[断熱・遮熱 工法]	[スポーツ床 防水工法]	[保護モルタル 工法]	[側溝・巾木・長尺 シート複合法]	[室内簡易 防水工法]	[建築技術審査 証明工法]
一般屋根防水	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○			◎
断熱・遮熱防水				◎*	◎					
遮熱防水	○	○	◎	◎	◎					○
役物が多い屋根	◎	◎								◎
バルコニー、 ベランダ	◎	○				◎	○	◎	○	◎
ひさし	◎	○								◎
開放廊下	○	○				◎		◎	○	○
室内(トイレなど)		○				◎	◎			
室内(OAなど)	◎								◎	
スポーツ床防水						◎				

※PKD工法

● 防水層の種類

- D** : ブルーフロンエコDX※①
ブルーフロンエコDX NS※①
- HG** : ブルーフロンエコHG※②
ブルーフロンエコHG NS※②
- HGM** : ブルーフロンエコHG MID※②
- DHG** : ブルーフロンエコDX※①と
ブルーフロンエコHG※②の複合
ブルーフロンエコDX NS※①と
ブルーフロンエコHG NS※②の複合
- IHG** : ブルーフロンエコONEII※③と
ブルーフロンエコHG※②の複合
ブルーフロンエコONE NSII※③と
ブルーフロンエコHG NS※②の複合

● 防水材の使用量

15 : 2.0kg/㎡	1.8kg/㎡	2.1kg/㎡
20 : 2.6kg/㎡	2.4kg/㎡	2.8kg/㎡
25 : 3.3kg/㎡	3.0kg/㎡	3.5kg/㎡
30 : 3.9kg/㎡	3.6kg/㎡	4.2kg/㎡
40 : 5.2kg/㎡	4.8kg/㎡	5.6kg/㎡
防水層の種類 ※①	防水層の種類 ※②	防水層の種類 ※③

●使用量は品種によって異なります。詳しくは各種の仕様でご確認ください。

● トップコートの種類

- ES** : ブルーフロンEGトップSi
- GE** : ブルーフロンGRトップエコ
- S** : ブルーフロンGRトップ遮熱
- F** : ブルーフロンGRトップ フッ素
- G** : ブルーフロンGRトップ
- FT** : ユータックFT
- WS** : ブルーフロンエコ水性GRトップ遮熱
- WG** : ブルーフロンエコ水性GRトップ

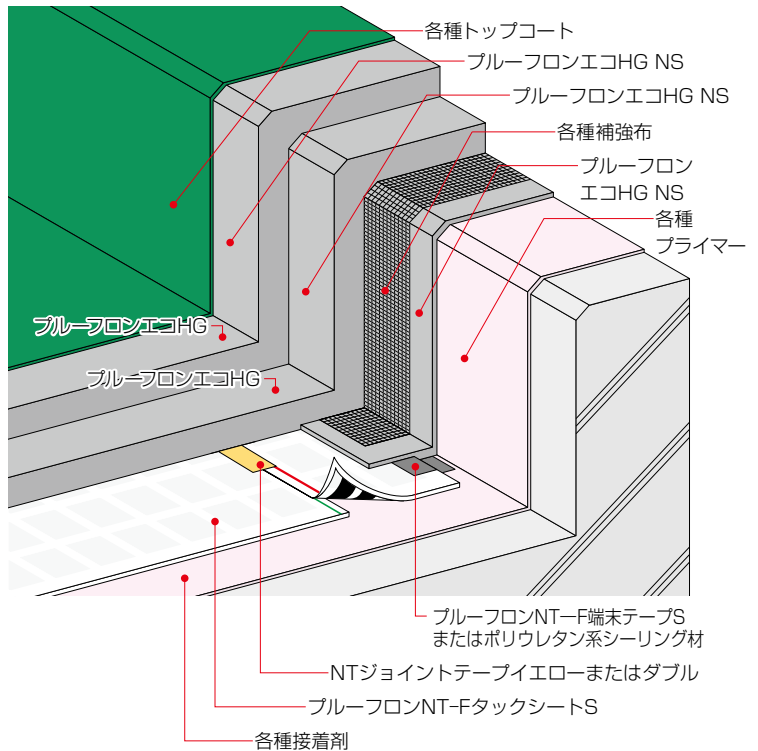
官公庁仕様

公共建築工事標準仕様書[令和4年版]（国土交通省大臣官房官庁営繕部）
 公共建築改修工事標準仕様書[令和4年版]（国土交通省大臣官房官庁営繕部）
 日本建築学会 建築工事標準仕様書JASS8 [2022年版]

【ブルーフロンエコHG仕様】

工法名 工程	公共建築工事標準仕様書 X-1 公共建築改修工事 X-1 (POX) 日本建築学会 L-USS	X-1
①	接着剤塗り 0.3kg/m ²	各種接着剤 または 各種プライマー
②	通気緩衝シート	通気緩衝シート
③	ウレタン塗膜防水材塗り 3.0kg/m ² (硬化物比重1.0の場合)	ブルーフロンエコHG 1.8kg/m ²
④		ブルーフロンエコHG 1.8kg/m ²
⑤	仕上げ材塗り	各種トップコート 0.2kg/m ²

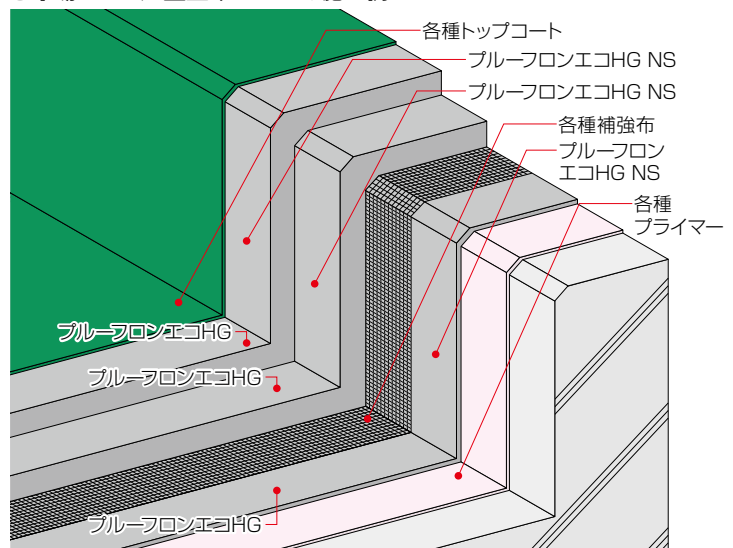
●平場：X-1／立上り：X-2の施工例



【ブルーフロンエコHG仕様】

工法名 工程	公共建築工事標準仕様書 X-2 公共建築改修工事 X-2 (L4X) 日本建築学会 L-UFS	X-2	X-2 立上り用
①	プライマー塗り 0.2kg/m ²	各種プライマー 0.2kg/m ²	
②	ウレタン塗膜防水材塗り 0.3kg/m ² (硬化物比重1.0の場合)	ブルーフロン エコHG 0.3kg/m ²	ブルーフロン エコHG NS 0.3kg/m ²
③	補強布張り	各種補強布	
④	ウレタン塗膜防水材塗り【平場部】 2.7kg/m ² (硬化物比重1.0の場合)	ブルーフロン エコHG 1.8kg/m ²	ブルーフロン エコHG NS 1.1kg/m ²
⑤	ウレタン塗膜防水材塗り【立上り部】 1.7kg/m ² (硬化物比重1.0の場合)	ブルーフロン エコHG 1.5kg/m ²	ブルーフロン エコHG NS 1.0kg/m ²
⑥	仕上げ材塗り	各種トップコート 0.2kg/m ²	

●平場：X-2／立上り：X-2の施工例



■注意事項

- プライマーは②③ページの適合表から選定ください。
- トップコートは②③ページの適合表から選定ください。
- 通気緩衝シート・接着剤は②ページ、補強布は④ページよりお選びください。
- 特化則非該当・環境配慮仕様にする場合は、特化則対応・環境配慮品のプライマー、ボンド、トップコートをご使用ください。

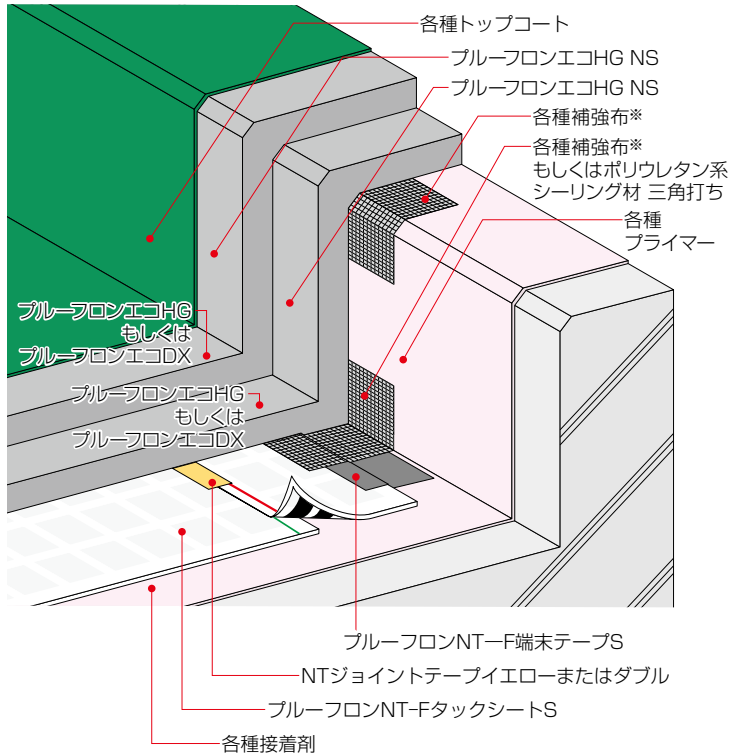
PX・PXTg工法 [建設技術審査証明工法]

国土交通省公共建築工事標準仕様書X-1 X-2 (立上り)相当仕様

【ブルーフロンエコHG仕様】

工法名 工程	X-1	PXTg-HG20 (立上り)
①	各種接着剤 または各種プライマー	各種プライマー 0.2kg/m ²
②	通気緩衝シート	ブルーフロンエコHG NS 1.2kg/m ²
③	ブルーフロンエコHG 1.8kg/m ²	ブルーフロンエコHG NS 1.2kg/m ²
④	ブルーフロンエコHG 1.8kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²
⑤	各種トップコート 0.2kg/m ²	—

●平場：X-1 / 立上り：PXTg-HG20工法の施工例



※ブルーフロン補強テープVS以外の補強布を使用する場合は、補強布接着用に防水材料の施工が必要になります。

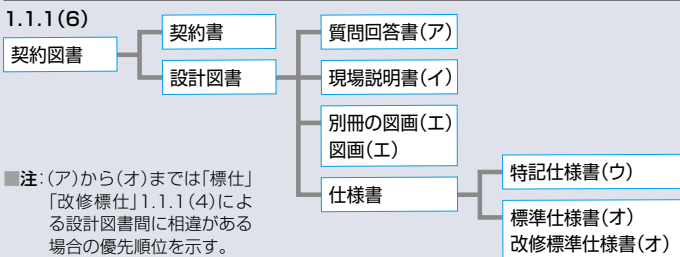
【平場：ブルーフロンエコDX / 立上り：ブルーフロンエコHG NS仕様】

工法名 工程	X-1	PXTg-HG20 (立上り)
①	各種接着剤 または各種プライマー	各種プライマー 0.2kg/m ²
②	通気緩衝シート	ブルーフロンエコHG NS 1.2kg/m ²
③	ブルーフロンエコDX 2.0kg/m ²	ブルーフロンエコHG NS 1.2kg/m ²
④	ブルーフロンエコDX 1.9kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²
⑤	各種トップコート 0.2kg/m ²	—

■塗膜防水「標仕」以外の工法として、建設技術審査証明仕様への提案について

公共建築工事標準仕様書および、公共建築改修工事標準仕様書には設計図書間の優先順位を定めています。発注者及び監督職員と協議の上、承認を得た場合は、建設技術審査証明仕様のPXTg-HG20工法(X-2立上り)やPX-HG30工法(X-2平場)、PXT-HG20工法(X-2立上り)へ変更することが可能となります。

●建築工事監理指針、建築改修工事監理指針(令和4年版)より抜粋



1.5.8 工法等の提案(1.7.8 工法等の提案)

設計図書に定められた工法等以外について、次の提案がある場合、監督職員と協議する。

- (1) 所要の品質及び性能の確保された工法等でVE提案
- (2) 環境の保全に有効な工法等の提案
- (3) 所要の品質及び性能が確保され、かつ生産性向上に有効な工法等の提案

■注意事項

- 建設技術審査証明工法を官公庁仕様として適用する場合は施工時の管理・記録を行うことでX-2工法と同等であることを証明しています。
- シート取り合い部など、膜厚が確保できない場合には各種補強布を挿入してください。
- 出隅は、補強布を用いて処理してください。
- 出隅の補強布張りは、規定の厚みを確保できれば省略することが可能です。
- 入隅は、補強布または、ポリウレタン系シーリング材で処理してください。

- プライマーは②④ページの適合表から選定ください。
- トップコートは②⑤ページの適合表から選定ください。
- 通気緩衝シート・接着剤は②⑥ページ、補強布は④①ページよりお選びください。
- 特化則非該当・環境配慮仕様にする場合は、特化則対応・環境配慮品のプライマー、ポンド、トップコートをご使用ください。
- ブルーフロンエコDXの詳細は別紙「ブルーフロンシリーズ」をご参照ください。

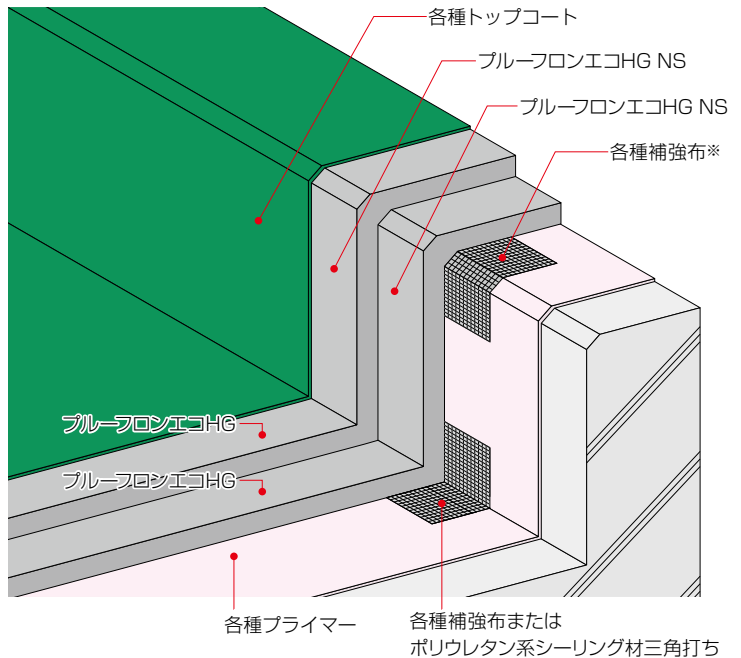
PX・PXT・PXTg工法 [建設技術審査証明工法]

国土交通省公共建築工事標準仕様書 X-2相当仕様

【ブルーフロンエコHG仕様】

工法名 工程	PX-HG30	PXTg-HG20 (立上り)
①	各種プライマー 0.2kg/m ²	
②	ブルーフロンエコHG 1.8kg/m ²	ブルーフロンエコHG NS 1.2kg/m ²
③	ブルーフロンエコHG 1.8kg/m ²	ブルーフロンエコHG NS 1.2kg/m ²
④	各種トップコート 0.2kg/m ²	

●平場：PX-HG30工法 / 立上り：PXTg-HG20工法の施工例



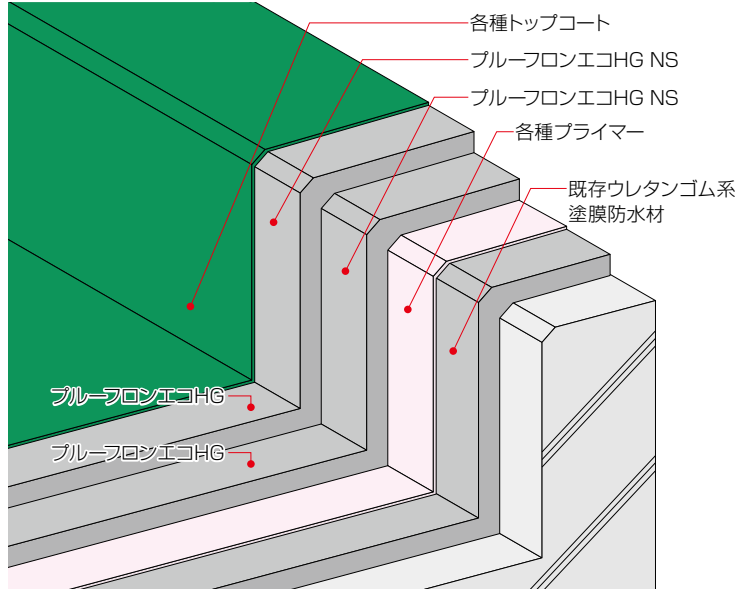
*ブルーフロン補強テープVS以外の補強布を使用する場合は、補強布接着用に防水材の施工が必要になります。

【ブルーフロンエコHG 既存ウレタンゴム系塗膜防水材がある場合】

工法名 工程	PX-HG30	PXT-HG20 (立上り)
①	各種プライマー倍希釈 0.1kg/m ² (混合材料) もしくは ブルーフロン塗り替え用プライマー 0.1kg/m ²	
②	ブルーフロンエコHG 1.8kg/m ²	ブルーフロンエコHG NS 1.2kg/m ²
③	ブルーフロンエコHG 1.8kg/m ²	ブルーフロンエコHG NS 1.2kg/m ²
④	各種トップコート 0.2kg/m ²	

*PXT-HG工法は下地にウレタンゴム系塗膜防水材がある場合の工法です。

●平場：PX-HG30工法 / 立上り：PXT-HG20工法の施工例



■注意事項

- 建設技術審査証明工法を官公庁仕様として適用する場合は施工時の管理・記録を行うことでX-2と同等であることを証明しています。
- 出隅は、補強布を用いて処理してください。既存ウレタンゴム系塗膜防水材がある場合の施工では、規定膜厚を確保できれば省略も可能です。
- 入隅は、補強布または、ポリウレタン系シーリング材で処理してください。既存ウレタンゴム系塗膜防水材がある場合の施工では、状態によっては省略可能です。

- プライマーは②④ページの適合表から選定ください。
- トップコートは⑤⑥ページの適合表から選定ください。
- 補強布は④ページよりお選びください。
- 特化則非該当・環境配慮仕様にする場合は、特化則対応・環境配慮品のプライマー、トップコートをご使用ください。

PM工法 [密着工法]

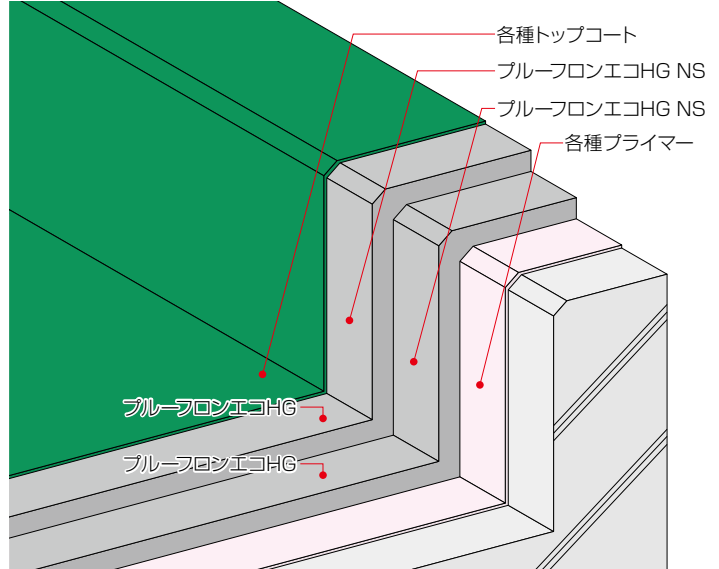
PM工法は一般的なウレタンゴム系塗膜防水材の密着工法で、複雑な形状に簡単に対応し、シームレスな仕上がりが得られます。

- 用途**
- ベランダ、バルコニー
 - ひさし、パラペット
 - 役物の多い屋根防水
 - 開放廊下など

【ブルーフロンエコHG仕様】

工法名 工程	PM-HG20	PM-HG30	PMT-HG20 (立上り)
①	各種プライマー 0.2kg/m ²		
②	ブルーフロンエコHG 1.2kg/m ²	ブルーフロンエコHG 1.8kg/m ²	ブルーフロン エコHG NS 1.2kg/m ²
③	ブルーフロンエコHG 1.2kg/m ²	ブルーフロンエコHG 1.8kg/m ²	ブルーフロン エコHG NS 1.2kg/m ²
④	各種トップコート 0.2kg/m ²		

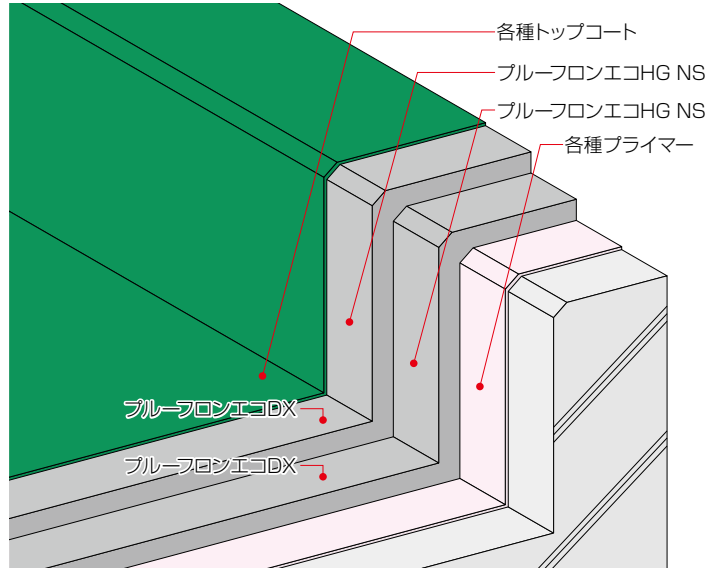
●平場：PM-HG工法 / 立上り：PMT-HG工法の施工例



【平場：ブルーフロンエコDX / 立上り：ブルーフロンエコHG NS 一般仕様】

工法名 工程	PM-D20	PM-D30	PMT-HG20 (立上り)
①	各種プライマー 0.2kg/m ²		
②	ブルーフロンエコDX 1.3kg/m ²	ブルーフロンエコDX 2.0kg/m ²	ブルーフロン エコHG NS 1.2kg/m ²
③	ブルーフロンエコDX 1.3kg/m ²	ブルーフロンエコDX 1.9kg/m ²	ブルーフロン エコHG NS 1.2kg/m ²
④	各種トップコート 0.2kg/m ²		

●平場：PM-D工法 / 立上り：PMT-HG工法の施工例



■注意事項

- プライマーは②④ページの適合表から選定ください。
- トップコートは⑤⑥ページの適合表から選定ください。
- 特化則非該当・環境配慮仕様にする場合は、特化則対応・環境配慮品のプライマー、トップコートをご使用ください。
- ブルーフロンエコDXの詳細は別紙「ブルーフロンシリーズ」をご参照ください。

PM複合工法 [密着工法]

PM複合工法は、伸び率に優れるブルーフロンエコDXやブルーフロンエコONE IIなどと、伸び率および引張強さに優れるブルーフロンエコHGを組み合わせた工法で、相乗効果により防水性と耐久性を高める工法です。

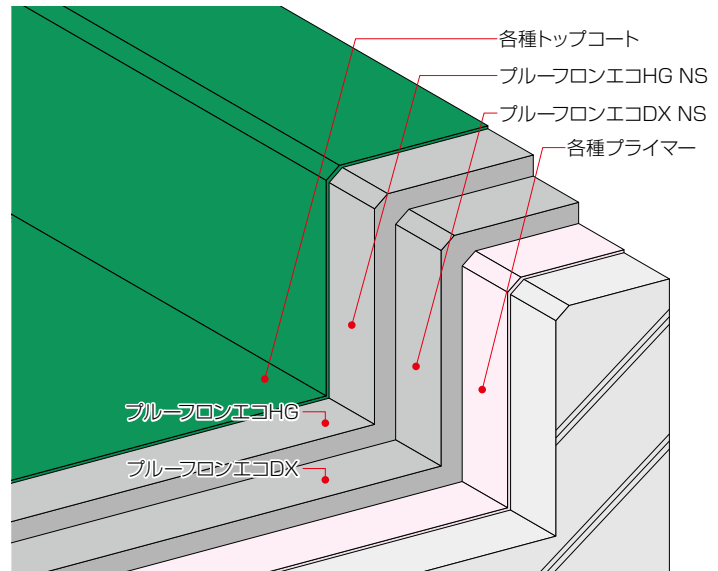
用途

- ベランダ、バルコニー
- ひさし、パラペット
- 役物の多い屋根防水
- 開放廊下など

【ブルーフロンエコDX・HG複合仕様】(防水層1層目=エコDX、2層目=エコHG 複合工法)

工法名 工程	PM-DHG25	PMT-DHG20 (立上り)
①	各種プライマー 0.2kg/m ²	
②	ブルーフロンエコDX 1.7kg/m ²	ブルーフロンエコDX NS 1.3kg/m ²
③	ブルーフロンエコHG 1.5kg/m ²	ブルーフロンエコHG NS 1.2kg/m ²
④	各種トップコート 0.2kg/m ²	

●平場：PM-DHG工法 / 立上り：PMT-DHG工法の施工例

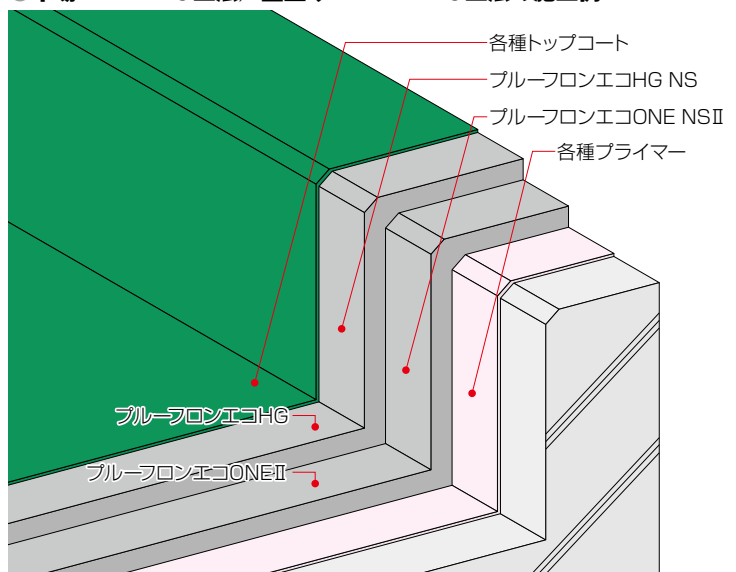


工法名 工程	PM-DHG30
①	各種プライマー 0.2kg/m ²
②	ブルーフロンエコDX 2.0kg/m ²
③	ブルーフロンエコHG 1.8kg/m ²
④	各種トップコート 0.2kg/m ²

【ブルーフロンエコONE II・HG複合仕様】(防水層1層目=エコONE II、2層目=エコHG 複合工法)

工法名 工程	PM-IHG25	PMT-IHG20 (立上り)
①	各種プライマー 0.2kg/m ²	
②	ブルーフロンエコONE II 1.8kg/m ²	ブルーフロンエコONE NS II 1.4kg/m ²
③	ブルーフロンエコHG 1.5kg/m ²	ブルーフロンエコHG NS 1.2kg/m ²
④	各種トップコート 0.2kg/m ²	

●平場：PM-IHG工法 / 立上り：PMT-IHG工法の施工例



■注意事項

- プライマーは②④ページの適合表から選定ください。
 - トップコートは⑤⑥ページの適合表から選定ください。
 - 特化則非該当・環境配慮仕様にする場合は、特化則対応・環境配慮品のプライマー、トップコートをご使用ください。
 - ブルーフロンエコHGは上記防水材以外との相性が悪いので、上記防水層以外とNTスプレー各種以外との複合工法はできません。
 - 下階が居室になる場合は、入隅にポリウレタン系シーリング材の施工や補強布張りを行ってください。
 - 出隅は規定の使用量を確保してください。
- ※防水層の複合工法は上記工法以外でも可能です。

PM改修工法 [密着工法]

既存ウレタンゴム系塗膜防水材の改修工法

PM改修工法は、既存ウレタンゴム系塗膜防水材の改修の際にさらなる防水性能の向上を図る工法です。既存塗膜の撤去が不要で、増塗りができ、既存の防水層との一体化により、強靱な防水層を形成します。

用途

- ベランダ、バルコニー
- ひさし、パラペット
- 役物の多い屋根防水
- 開放廊下など

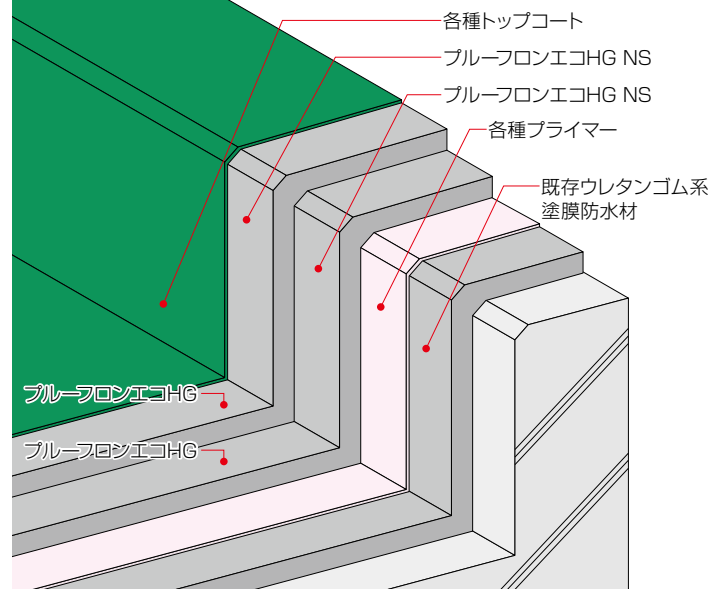
【ブルーフロンエコHG 既存ウレタンゴム系塗膜防水材塗り替え仕様】

工法名 工程	PM-HG25	PMT-HG20 (立上り)
①	各種プライマー倍希釈 0.1kg/m ² (混合材料) もしくは ブルーフロン塗り替え用プライマー 0.1kg/m ²	
②	ブルーフロンエコHG 1.5kg/m ²	ブルーフロンエコHG NS 1.2kg/m ²
③	ブルーフロンエコHG 1.5kg/m ²	ブルーフロンエコHG NS 1.2kg/m ²
④	各種トップコート 0.2kg/m ²	

■注意事項

- 環境配慮型各種プライマーを倍希釈する際は、ブルーフロンエコシンナーをご使用ください。各種プライマーを倍希釈する際は、ブルーフロンGRトップシンナーをご使用ください。
- 下階が居室になる場合は、入隅にポリウレタン系シーリング材の施工や補強布張りを行ってください。
- プライマーは②④ページの適合表から選定ください。
- トップコートは⑤⑥ページの適合表から選定ください。
- 特化則非該当・環境配慮仕様にする場合は、特化則対応・環境配慮品のプライマー、トップコートをご使用ください。

●PM-HG25の施工例



PF工法 [側溝・巾木]

用途

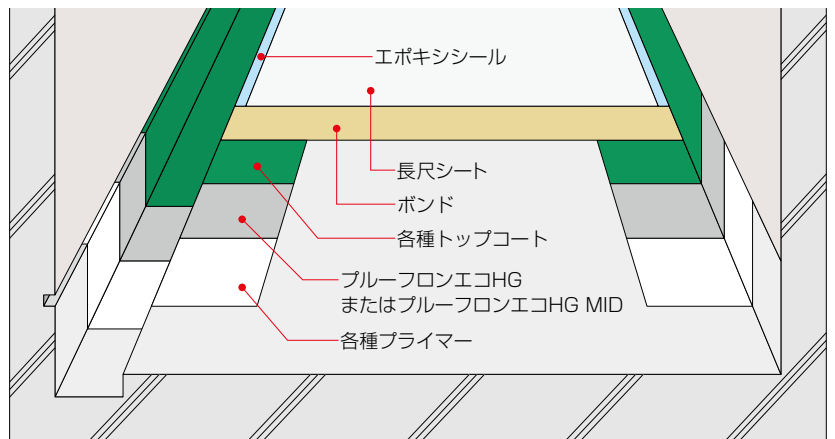
- ベランダ、バルコニー
- 開放廊下

【ブルーフロンエコHG仕様】

工法名 工程	PF-HG20	PF-HGM20
①	各種プライマー 0.2kg/m ²	
②	ブルーフロンエコHG 1.2kg/m ²	ブルーフロンエコHG MID 1.2kg/m ²
③	ブルーフロンエコHG 1.2kg/m ²	ブルーフロンエコHG MID 1.2kg/m ²
④	各種トップコート 0.2kg/m ²	

【ブルーフロンエコHG仕様】(階下に居室がない場合)

工法名 工程	PF-HG15	PF-HGMW1.5
①	各種プライマー 0.2kg/m ²	
②	ブルーフロンエコHG 1.8kg/m ²	ブルーフロンエコHG MID 1.5kg/m ²
③	各種トップコート 0.2kg/m ²	



■注意事項

- プライマーやトップコートは各種選択可能です。下地状況や目的などに応じて選択ください。
- プライマーは②④ページの適合表から選定ください。
- トップコートは⑤⑥ページの適合表から選定ください。
- 特化則非該当・環境配慮仕様にする場合は、特化則対応・環境配慮品のプライマー、トップコートをご使用ください。

PN工法 [通気緩衝工法]

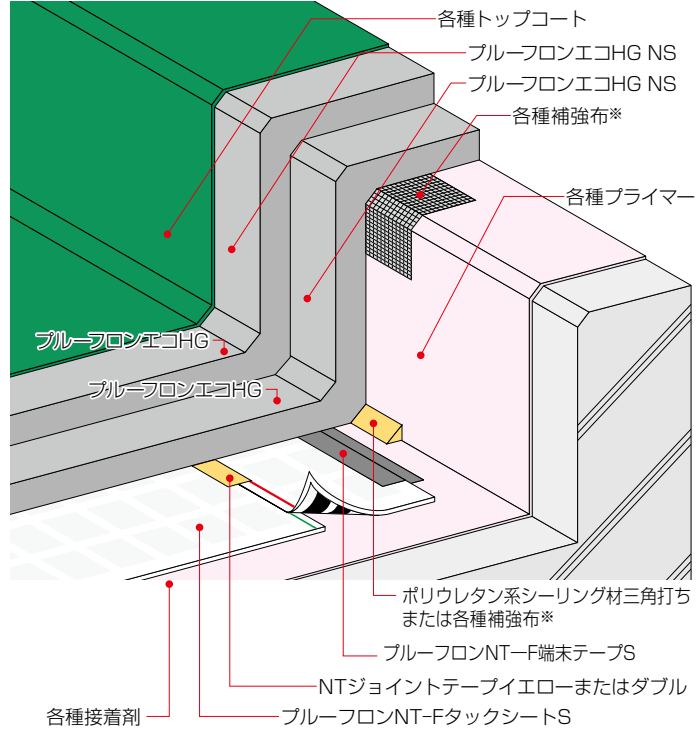
PN工法は屋根防水に最適な通気緩衝シートを用いた防水工法で、長期にわたる防水性能があります。下地の動きに対応でき、下地の水分を拡散して脱気筒から放出し、防水層のフクレを抑制する工法です。

用途 ●一般屋上など

【ブルーフロンエコHG仕様】

工法名 工程	PN-HG20	PN-HG30	PXTg-HG20 (立上り)
①	各種接着剤 または各種プライマー		各種プライマー 0.2kg/m ²
②	通気緩衝シート		
③	ブルーフロンエコHG 1.2kg/m ²	ブルーフロンエコHG 1.8kg/m ²	ブルーフロン エコHG NS 1.2kg/m ²
④	ブルーフロンエコHG 1.2kg/m ²	ブルーフロンエコHG 1.8kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²
⑤	各種トップコート 0.2kg/m ²		

●平場：PN-HG工法 / 立上り：PXTg-HG工法の施工例

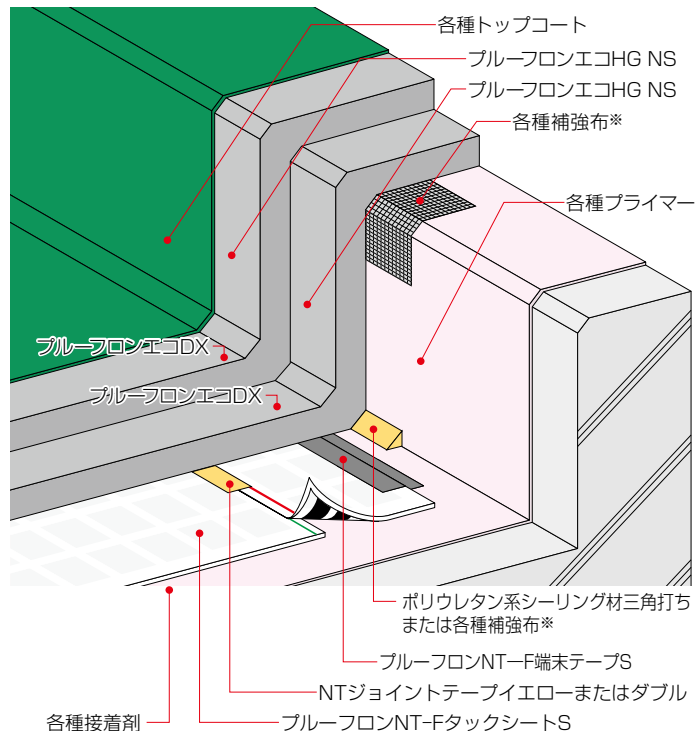


※ブルーフロン補強テープVS以外の補強布を使用する場合は、補強布接着用に防水材の施工が必要になります。

【平場：ブルーフロンエコDX / 立上り：ブルーフロンエコHG NS仕様】

工法名 工程	PN-D20	PN-D30	PXTg-HG20 (立上り)
①	各種接着剤 または各種プライマー		各種プライマー 0.2kg/m ²
②	通気緩衝シート		
③	ブルーフロンエコDX 1.3kg/m ²	ブルーフロンエコDX 2.0kg/m ²	ブルーフロン エコHG NS 1.2kg/m ²
④	ブルーフロンエコDX 1.3kg/m ²	ブルーフロンエコDX 1.9kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²
⑤	各種トップコート 0.2kg/m ²		

●平場：PN-D工法 / 立上り：PXTg-HG工法の施工例



※ブルーフロン補強テープVS以外の補強布を使用する場合は、補強布接着用に防水材の施工が必要になります。

■注意事項

- 入隅は、建物やパラベットの状況に応じ、補強布張りを行ってください。
- 出隅は、規定の使用量が確保できる場合は補強布張りを省略することができます。
- プライマーは②④ページの適合表から選定ください。
- トップコートは⑤⑥ページの適合表から選定ください。
- 通気緩衝シート、補強布は④ページよりお選びください。
- 特化則非該当・環境配慮仕様にする場合は、特化則対応・環境配慮品のプライマー、ボンド、トップコートをご使用ください。
- ブルーフロンエコDXの詳細は別紙「ブルーフロンシリーズ」をご参照ください。

PG工法 [密着補強布入り工法]

用途

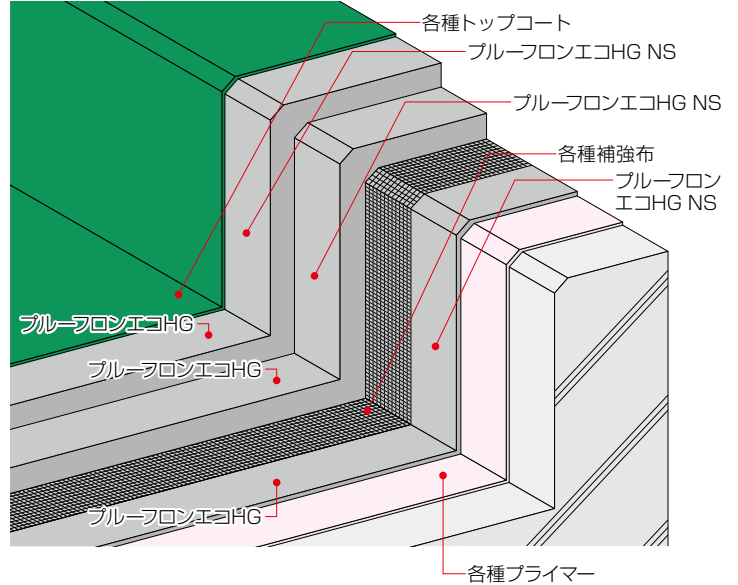
- 一般屋上
- ベランダ、バルコニー
- ひさし、パラベット
- 役物の多い屋根防水
- 開放廊下など

PG工法は均一に必要な膜厚を確保できる密着補強布入りの工法です。補強布の補強効果があり、下地の経年変形による防水層の破断も抑制できます。

【ブルーフロンエコHG仕様】

工法名 工程	PG-HG20	PG-HG30	PGT-HG20 (立上り)
1	各種プライマー 0.2kg/m ²		
2	ブルーフロンエコHG 0.3kg/m ²	ブルーフロンエコHG 0.3kg/m ²	ブルーフロン エコHG NS 0.3kg/m ²
3	補強布		
4	ブルーフロンエコHG 1.1kg/m ²	ブルーフロンエコHG 1.8kg/m ²	ブルーフロン エコHG NS 1.1kg/m ²
5	ブルーフロンエコHG 1.0kg/m ²	ブルーフロンエコHG 1.5kg/m ²	ブルーフロン エコHG NS 1.0kg/m ²
6	各種トップコート 0.2kg/m ²		

●平場：PG-HG工法 / 立上り：PGT-HG工法の施工例



PK工法 [機械的固定工法]

用途

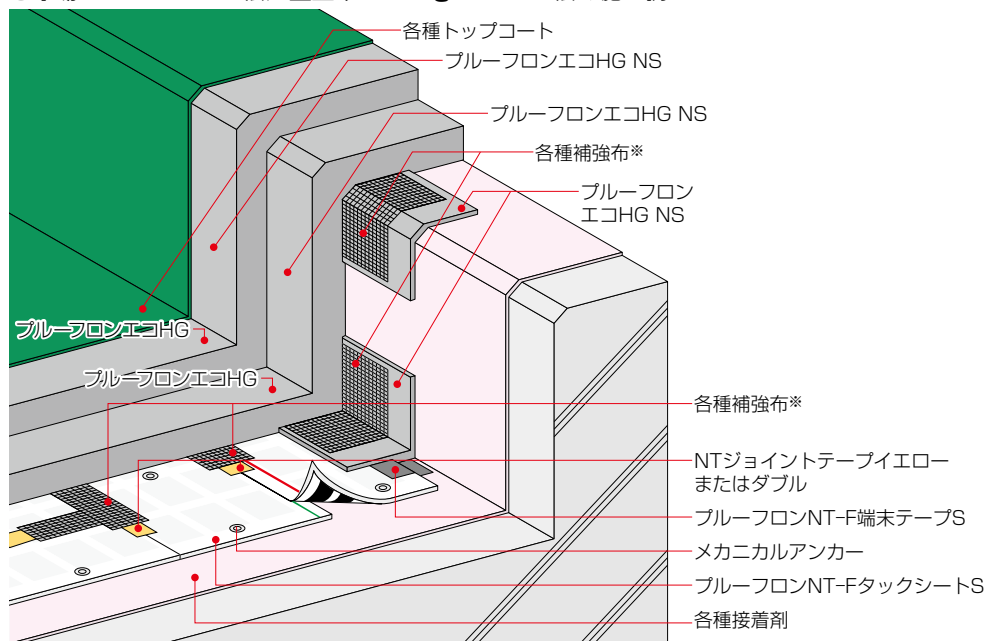
- 一般屋上など

PK工法(機械的固定工法)は「ブルーフロンNT-FタックシートS」を「メカニカルアンカー」で下地に固定し、ウレタンゴム系塗膜防水材料で仕上げる通気緩衝複合機械的固定工法です。大がかりな処理を必要とせず、さまざまな既存下地に施工できるため、下地処理工程や廃材の削減に寄与します。また、防水層のフクレ防止など、改修工事に最適な工法です。

【ブルーフロンエコHG仕様】

工法名 工程	PK-HG30	PXTg-HG20 (立上り)
1	各種接着剤 または各種プライマー もしくは不要	各種プライマー 0.2kg/m ²
2	ブルーフロン NT-FタックシートS	ブルーフロン エコHG NS 1.2kg/m ²
3	メカニカルアンカー	ブルーフロン エコHG NS 1.2kg/m ²
4	ブルーフロンエコHG 1.8kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²
5	ブルーフロンエコHG 1.8kg/m ²	—
6	各種トップコート 0.2kg/m ²	—

●平場：PK-HG30工法 / 立上り：PXTg-HG20工法の施工例



*ブルーフロン補強テープVSを使用する場合は、接着用防水材は不要です。

■注意事項(PG工法・PK工法)

- プライマーは②④ページの適合表から選定ください。
- トップコートは⑤⑥ページの適合表から選定ください。
- 接着剤は③ページ、補強布は①ページよりお選びください。
- PK工法において、出隅は規定の使用量が確保できる場合は補強布を省略することが可能です。
- 特化則非該当・環境配慮仕様にする場合は、特化則対応・環境配慮品のプライマー、ボンド、トップコートをご使用ください。

PKD 工法 [機械的固定・断熱・遮熱工法]

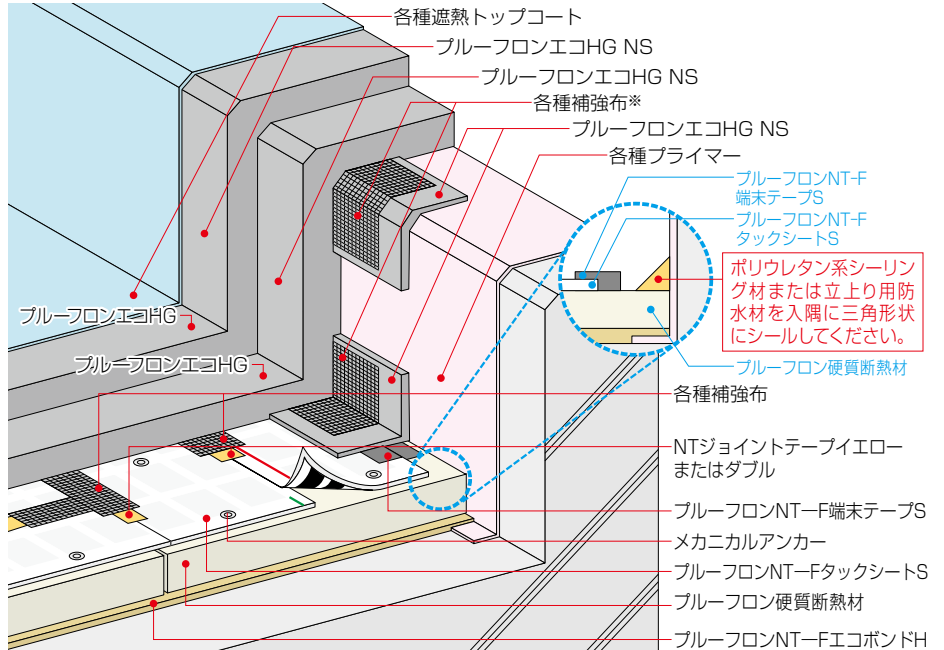
PKD工法は「ブルーフロンNT-FタックシートS」を「メカニカルアンカー」で下地に固定する機械的固定工法と断熱材を組み合わせ、さらに遮熱性を付与した工法です。

用途 ●一般屋上
など

【ブルーフロンエコHG仕様】

工法名 工程	PKD-HG30	PXTg-HG20 (立上り)
①	ブルーフロンNT-FエコボンドH	各種プライマー 0.2kg/m ²
②	ブルーフロン硬質断熱材	ブルーフロンエコHG NS 1.2kg/m ²
③	ブルーフロンNT-FタックシートS	ブルーフロンエコHG NS 1.2kg/m ²
④	メカニカルアンカー	各種遮熱トップコート 0.2kg/m ²
⑤	ブルーフロンエコHG 1.8kg/m ²	—
⑥	ブルーフロンエコHG 1.8kg/m ²	—
⑦	各種遮熱トップコート 0.2kg/m ²	—

●平場：PKD-HG工法 / 立上り：PXTg-HG工法の施工例



※ブルーフロン補強テープVSを使用する場合は、接着用防水材は不要です。

PD 工法 [断熱・遮熱工法]

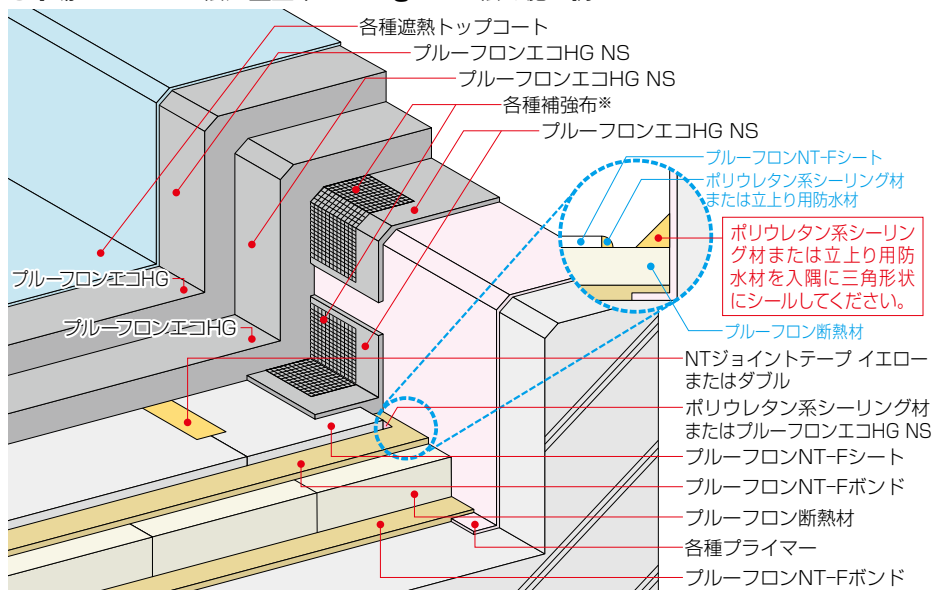
PD工法は屋上からの熱を遮断することにより、室内への熱の侵入を防ぎ、建物の躯体の劣化を抑制する工法です。遮熱仕様のトップコートにより、室内への熱の侵入を低減し、かつ防水層の劣化を防ぎます。

用途 ●一般屋上
など

【ブルーフロンエコHG仕様】

工法名 工程	PD-HG30	PXTg-HG20 (立上り)
①	ブルーフロンNT-Fボンド	各種プライマー 0.2kg/m ²
②	ブルーフロン断熱材	ブルーフロンエコHG NS 1.2kg/m ²
③	ブルーフロンNT-Fボンド	ブルーフロンエコHG NS 1.2kg/m ²
④	ブルーフロンNT-Fシート	各種遮熱トップコート 0.2kg/m ²
⑤	ブルーフロンエコHG 1.8kg/m ²	—
⑥	ブルーフロンエコHG 1.8kg/m ²	—
⑦	各種遮熱トップコート 0.2kg/m ²	—

●平場：PD-HG工法 / 立上り：PXTg-HG工法の施工例



※ブルーフロン補強テープVSを使用する場合は、接着用防水材は不要です。

■注意事項(PKD工法、PD工法)

- プライマーは②③ページの適合表から選定ください。
- トップコートは②③ページの適合表から選定ください。
- 補強布は①ページよりお選びください。
- 各種遮熱トップコートの淡灰色(ライトグレー、ライトグリーン、ライトブルー、ホワイト)を選定した場合、隠ぺい性確保のため、2回塗りとなる場合があります。
- 特化則非該当：環境配慮仕様にする場合は、特化則対応・環境配慮品のプライマー、ボンド、トップコートをご使用ください。
- 入隅は、建物やパラベットの状況に応じ、補強布張りを行ってください。

PS工法[スポーツ床防水工法]

PS工法はウレタンゴム系塗膜防水材料とウレタン塗り床材(ユータック)を複合した工法で、重歩行可能なスポーツ床工法です。

- 用途**
- 屋上スポーツ床
 - 一般屋上(重歩行)

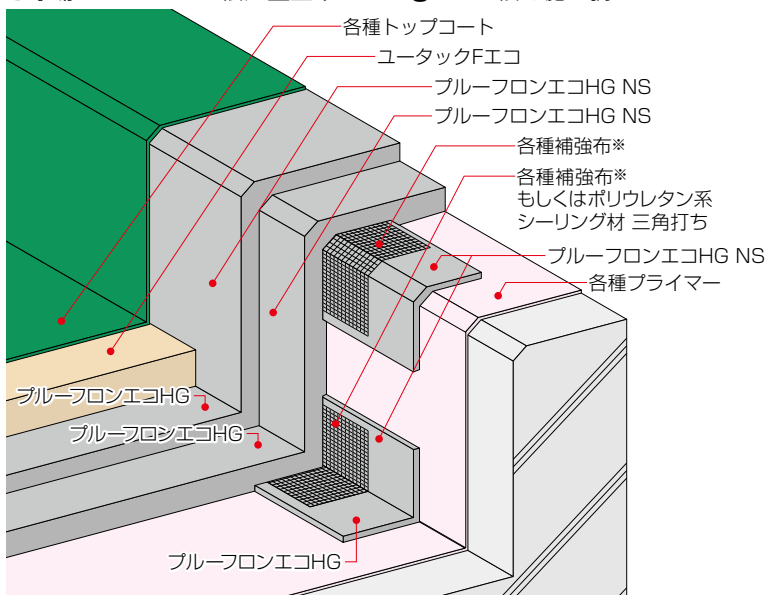
密着工法と通気緩衝工法があり、スポーツ施設や病院施設などの屋上の活用に最適な工法です。

PSM工法[スポーツ床密着工法]

【ブルーフロンエコHG仕様】

工法名 工程	PSM-HG40	PSM-HG50	PXTg-HG20 (立上り)
①	各種プライマー 0.2kg/㎡		
②	ブルーフロンエコHG 1.2kg/㎡	ブルーフロンエコHG 1.8kg/㎡	ブルーフロン エコHG NS 1.2kg/㎡
③	ブルーフロンエコHG 1.2kg/㎡	ブルーフロンエコHG 1.8kg/㎡	ブルーフロン エコHG NS 1.2kg/㎡
④	ユータックFエコ 2.4kg/㎡		各種トップコート 0.2kg/㎡
⑤	各種トップコート 0.2kg/㎡		—

●平場：PSM-HG工法／立上り：PXTg-HG工法の施工例



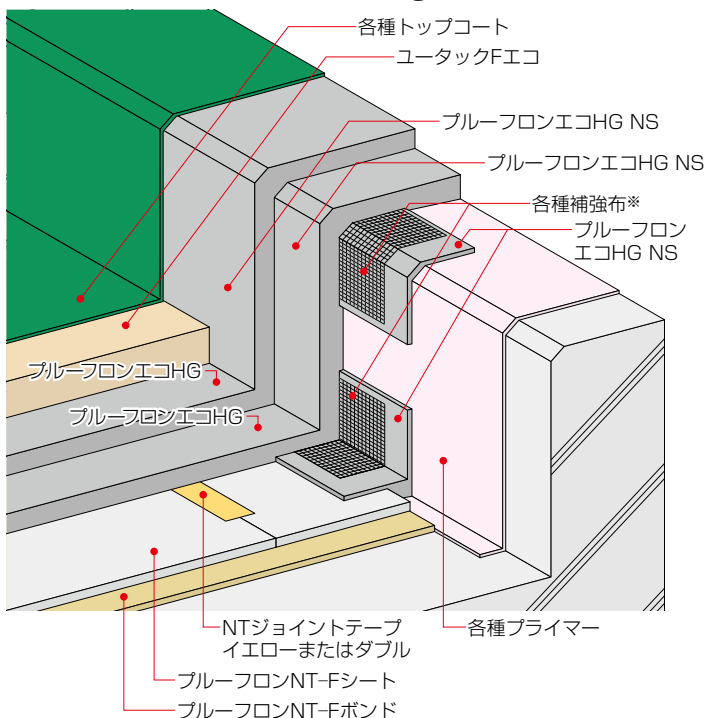
※ブルーフロン補強テープVSを使用する場合は、接着用防水材料は不要です。

PSN工法[スポーツ床通気緩衝工法]

【ブルーフロンエコHG仕様】

工法名 工程	PSN-HG40	PSN-HG50	PXTg-HG20 (立上り)
①	各種接着剤 (ボンドおよびプライマー)		各種プライマー 0.2kg/㎡
②	通気緩衝シート		ブルーフロン エコHG NS 1.2kg/㎡
③	ブルーフロンエコHG 1.2kg/㎡	ブルーフロンエコHG 1.8kg/㎡	ブルーフロン エコHG NS 1.2kg/㎡
④	ブルーフロンエコHG 1.2kg/㎡	ブルーフロンエコHG 1.8kg/㎡	各種トップコート 0.2kg/㎡
⑤	ユータックFエコ 2.4kg/㎡		—
⑥	各種トップコート 0.2kg/㎡		—

●平場：PSN-HG工法／立上り：PXTg-HG工法の施工例



※ブルーフロン補強テープVSを使用する場合は、接着用防水材料は不要です。

■注意事項(PS工法、PSU工法)

- プライマーは②④ページの適合表から選定ください。
- トップコートは②⑤ページの適合表から選定ください。
- 通気緩衝シート・接着剤は③ページ、補強布は④ページよりお選びください。
- 特化則非該当・環境配慮仕様にする場合は、特化則対応・環境配慮品のプライマー、ボンド、トップコートをご使用ください。
- 出隅は、規定の使用量が確保できる場合は補強布張りを省略することができます。
- 入隅は、建物やパラペットの状況に応じ、補強布張りを行ってください。

標準仕様書各種

■日本建築学会 建築工事標準仕様書・同解説 JASS8 防水工事 より抜粋

●面防水工事 不定形材塗布・吹付け工事 塗膜防水工事 ウレタンゴム系高伸長形塗膜防水工法・密着仕様(L-UFS)

部位 工程	平場(RC・PCa下地) (勾配 1/50~1/20)	立上り(RC下地)
工程-1	プライマー塗り 0.2kg/m ²	プライマー塗り 0.2kg/m ²
工程-2	補強布張付け (ウレタンゴム系高伸長形防水材)	補強布張付け (ウレタンゴム系高伸長形防水材)
工程-3	ウレタンゴム系高伸長形 防水材塗り [3.9kg/m ²]	ウレタンゴム系高伸長形 防水材塗り [2.6kg/m ²]
工程-4	ウレタンゴム系高伸長形 防水材塗り	ウレタンゴム系高伸長形 防水材塗り
保護層・ 仕上げ層 工程	仕上塗料	仕上塗料
工程-1	仕上塗料塗り [0.2kg/m ²]	仕上塗料塗り [0.2kg/m ²]

[RC:現場打ち鉄筋コンクリート、PCa:プレキャスト鉄筋コンクリート部材]

[注]

- (1)立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材とする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。目地部の処理は、特記による。
- (2)ウレタンゴム系防水材の使用量は、硬化物比重が1.3である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以外の場合にあっては、下表の使用量とする。
- (3)ウレタンゴム系防水材の使用量は総使用量を示しており、使用するウレタンゴム系防水材の性状や下地の状況などにより、工程数を増やすようにする。なお、ウレタンゴム系防水材の1工程あたりの使用量は、平場は2.5kg/m²以下、立上りは1.5kg/m²以下とする。
- (4)現場打ち鉄筋コンクリートの打継ぎ部、プレキャスト鉄筋コンクリート部材の接合部の処理は、特記による。
- (5)ウレタンゴム系防水材は、JIS A 6021(建築用塗膜防水材)の屋根用のウレタンゴム系高伸長形とする。

使用量 (kg/m ²)	平場 立上り	硬化物比重						換算 膜厚
		1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	
		3.0	3.3	3.6	3.9	4.2	4.5	3mm
		2.0	2.2	2.4	2.6	2.8	3.0	2mm

●ウレタンゴム系高伸長形塗膜防水工法・絶縁仕様(L-USS)

部位 工程	平場(RC・PCa下地) (勾配 1/50~1/20)	立上り(RC下地)
工程-1	通気緩衝シート張付け	プライマー塗り [0.2kg/m ²]
工程-2	ウレタンゴム系高伸長形 防水材塗り	補強布張付け (ウレタンゴム系高伸長形防水材)
工程-3	ウレタンゴム系高伸長形 防水材塗り [3.9kg/m ²]	ウレタンゴム系高伸長形 防水材塗り [2.6kg/m ²]
工程-4	—	ウレタンゴム系高伸長形 防水材塗り
保護層・ 仕上げ層 工程	仕上塗料	仕上塗料
工程-1	仕上塗料塗り [0.2kg/m ²]	仕上塗料塗り [0.2kg/m ²]

[RC:現場打ち鉄筋コンクリート、PCa:プレキャスト鉄筋コンクリート部材、ALC:ALCパネル]

[注]

- (1)立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材、ALCパネルとする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。目地部の処理は、特記による。
- (2)ウレタンゴム系防水材の使用量は、硬化物比重が1.3である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以外の場合にあっては、下表の使用量とする。
- (3)ウレタンゴム系防水材の使用量は総使用量を示しており、使用するウレタンゴム系防水材の性状や下地の状況などにより、工程数を増やすようにする。なお、ウレタンゴム系防水材の1工程あたりの使用量は、平場は2.5kg/m²以下、立上りは1.5kg/m²以下とする。
- (4)現場打ち鉄筋コンクリートの打継ぎ部、プレキャスト鉄筋コンクリート部材・ALCパネルの接合部の処理は、特記による。
- (5)ALCパネルの表面は、目止めを行う。その材料は特記による。
- (6)ウレタンゴム系防水材は、JIS A 6021(建築用塗膜防水材)の屋根用ウレタンゴム系高伸長形とする。
- (7)通気緩衝シートの張付け方法は、防水材製造所の指定による。
- (8)脱気装置を設置する場合、その位置、種類、個数は特記による。

使用量 (kg/m ²)	平場 立上り	硬化物比重						換算 膜厚
		1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	
		3.0	3.3	3.6	3.9	4.2	4.5	3mm
		2.0	2.2	2.4	2.6	2.8	3.0	2mm

●硬化物比重の異なる防水材の総使用量

硬化物比重	平場(kg/m ²)	立上り(kg/m ²)
1.0	3.0	2.0
1.1	3.3	2.2
1.2	3.6	2.4
1.3	3.9	2.6
1.4	4.2	2.8
1.5	4.5	3.0

■公共建築工事標準仕様書[令和4年版]より抜粋

●ウレタンゴム系塗膜防水工法の種別及び工程

種別	X-1(絶縁工法)		X-2(密着工法)	
	材料・工法	使用量(kg/㎡)	材料・工法	使用量(kg/㎡)
1	接着剤塗り 通気緩衝シート張り ^{(注)1}	0.3	プライマー塗り	0.2
2	ウレタンゴム系塗膜防水材塗り	3.0 ^{(注)4} ^{(注)5}	ウレタンゴム系塗膜防水材塗り 補強布張り	0.3
3	ウレタンゴム系塗膜防水材塗り		ウレタンゴム系塗膜防水材塗り	2.7 ^{(注)4} ^{(注)5}
4	仕上塗料塗り ^{(注)6}	—	ウレタンゴム系塗膜防水材塗り	(1.7) ^{(注)2}
5	—	—	仕上塗料塗り ^{(注)6}	—

(ア)防水層の工法による種別及び工程は表により、種別は特記による。

[注]

1. 接着剤以外による通気緩衝シートの張付け方法は、主材料の製造所の仕様による。
 2. 立上り部は全て、種別X-2とし、工程3及び工程4のウレタンゴム系防水材の使用量を()内とする。
 3. 表中のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以外の場合は、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。
 4. ウレタンゴム系塗膜防水材塗りは2回以上に分割して塗り付ける。
 5. ウレタンゴム系塗膜防水材塗りの1工程当たりの使用量は、平場は2.5kg/㎡、立上りは1.5kg/㎡を上限とする。
 6. 仕上塗料の種類及び使用量は、特記による。特記がなければ、使用量は主材料の製造所の仕様による。
- (イ)種別X-1において、脱気装置の種類及び設置数量は、特記による。特記がなければ、主材料の製造所の仕様による。

■公共建築改修工事標準仕様書[令和4年版]より抜粋

●改修工法の種類及び工程

○ ○ ○ 工法

- 新規防水工法の種別による区分
- 既存の保護層及び防水層の撤去・非撤去による区分
- 既存防水工法による区分

POX工法及びL4X工法は、次による。

新規防水層の種別及び工程は、特記による。特記がなければ、POX工法の場合は種別X-1とし、L4X工法の場合は種別X-2※とする。

※:L4X工法で既存防水層の表面に層間接着用プライマーを塗布した場合は、工程1を省略する

〈参考資料:公共建築改修工事標準仕様書における種別と公共建築工事標準仕様書の種別の対応表〉

改修工法	既存防水工法による区分	既存の保護層及び防水層の撤去・非撤去による区分	新規防水工法の種別による区分	ウレタンゴム系塗膜防水工法の種別
POX工法	P 保護アスファルト・改質アスファルト防水工法(断熱工法を含む)	O 保護層及び防水層非撤去(立上りは撤去) ^{(注)1}	X ウレタンゴム系塗膜防水工法	X-1
L4X工法	L ウレタンゴム系塗膜防水工法	4 露出防水層非撤去	X ウレタンゴム系塗膜防水工法	X-2

(注)1:立上り部等の既存防水層及び保護層の撤去を行わない場合は、特記による。

■公共建築工事標準仕様書、公共建築改修工事標準仕様書、日本建築学会仕様とブルーフロンエコHGの対応表

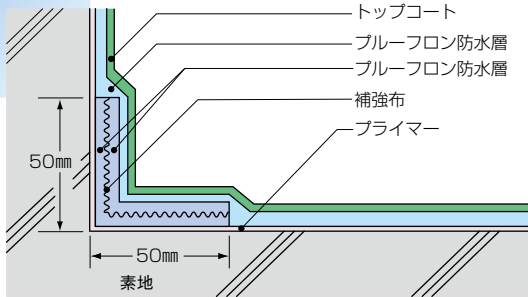
	種別及び工法、仕様書	日本特殊塗料(株)仕様
公共建築工事標準仕様書	X-1	ブルーフロンエコHG X-1工法 ブルーフロンエコHG PN-HG30
公共建築改修工事標準仕様書	POX工法	
日本建築学会仕様	L-USS	
公共建築工事標準仕様書	X-2	ブルーフロンエコHG X-2工法 ブルーフロンエコHG PG-HG30 ブルーフロンエコHG PX-HG30*
公共建築改修工事標準仕様書	L4X工法	
日本建築学会仕様	L-UFS 平場	
公共建築工事標準仕様書	X-2(立上り)	ブルーフロンエコHG X-2立上り工法 ブルーフロンエコHG PGT-HG20 ブルーフロンエコHG PXTg-HG20* ブルーフロンエコHG PXT-HG20*
公共建築改修工事標準仕様書	L4X工法(立上り)	
日本建築学会仕様	L-UFS 立上り、L-USS 立上り	

*:建設技術審査証明工法。補強布を出入隅のみに使用、または補強布を使用しない省力化工法であることを、発注者と監督職員に承認を得てください。

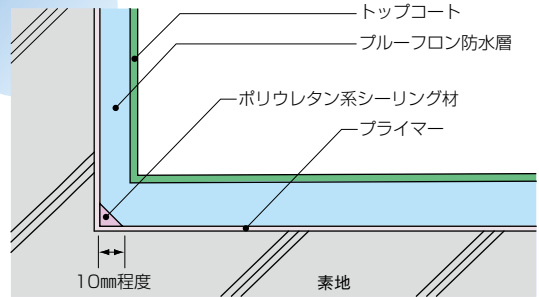
確実な防水効果を発揮します——。

■各部位の納まり例①

入隅

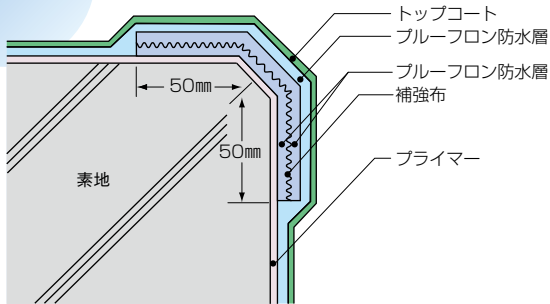


入隅

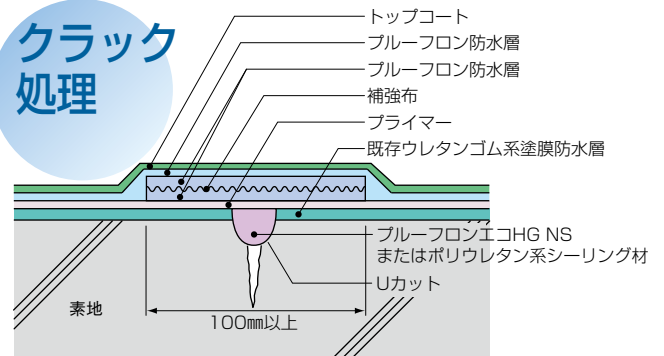


出隅

※出隅部はR、もしくは面取りを行ってください。

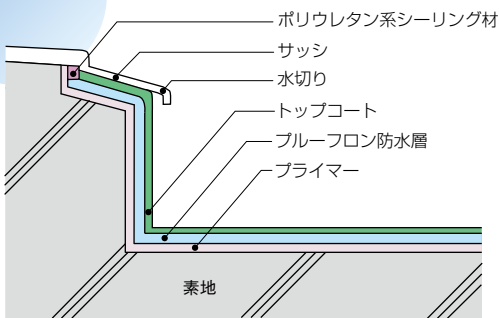


クラック処理

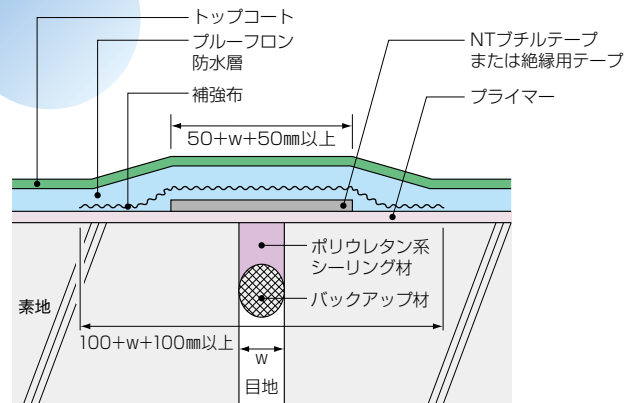


- 下地の1mm未満の小さいひび割れは、ポリウレタン系シーリング材やブルーフロンエコHG NSを塗りこむ。
- 1mm以上のひび割れはUカットしてポリウレタン系シーリング材もしくはブルーフロンエコHG NSを充填し、補強布を用いて補強塗り等を行う。

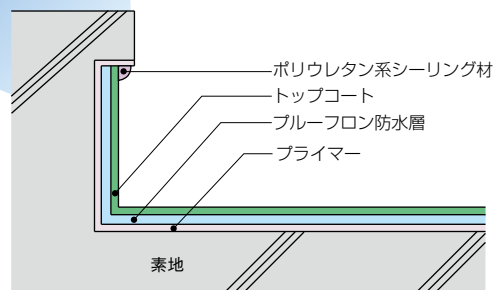
壁立上り① (開口部)



PC板 PMI法 [密着工法]



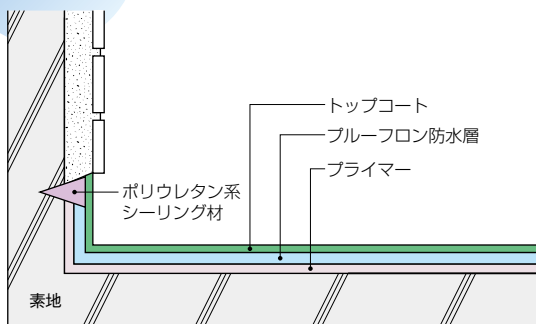
壁立上り②



※各部位の納まり図は一般的な例です。すべての施工において適用できるものではありません。

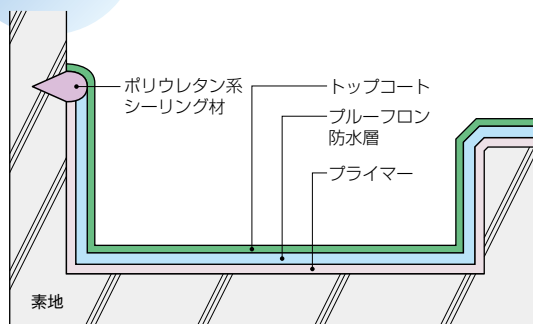
磁器タイル壁面補修納まり例

※磁器タイルを数枚剥がし防水材を立上げてください。
 ※VカットまたはUカット後にポリウレタン系シーリングで処理してください。

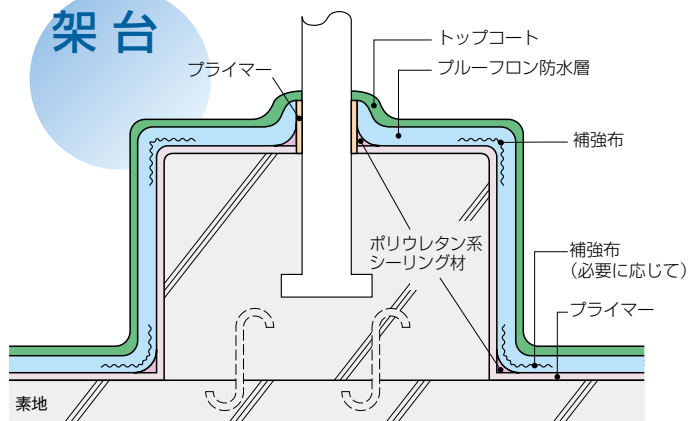


底部補修納まり例

※壁面は笠木より高く立上げてください。
 ※VカットまたはUカット後にポリウレタン系シーリングで処理してください。

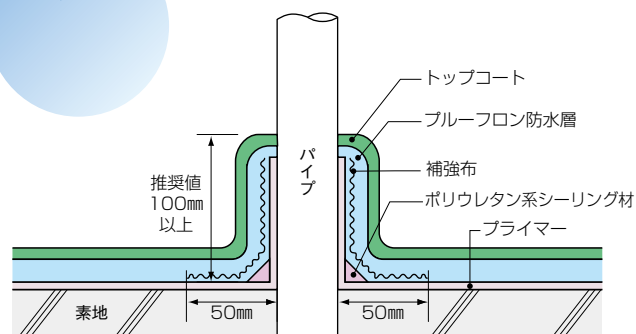


架台

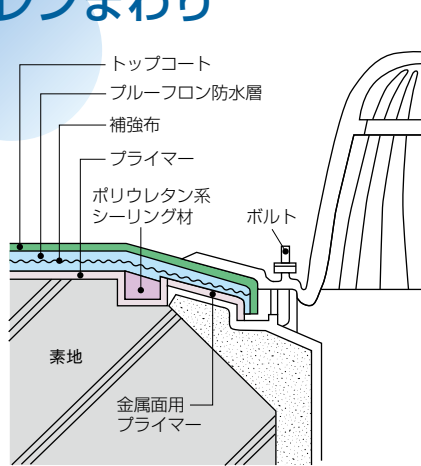


- 架台まわりの入隅は、ポリウレタン系シーリングで処理し、必要に応じて補強布を用いて補強塗りを行う。
- 出隅はブルーフロン補強テープ等の補強布を用いて処理する。
- 膜厚確保のための出隅用の補強は、規定の厚みが取れば省略することができる。

貫通パイプ

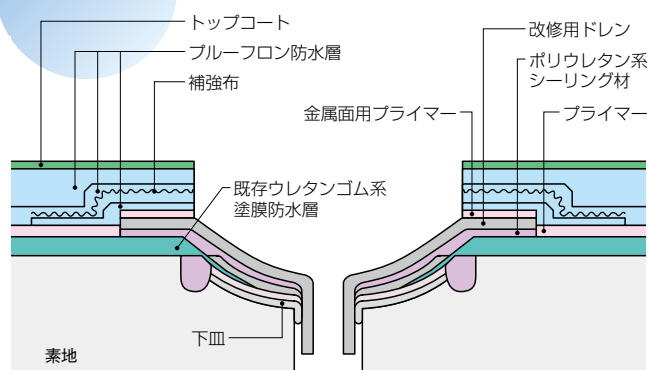


ドレンまわり



ドレンまわり(タテ引きドレン)

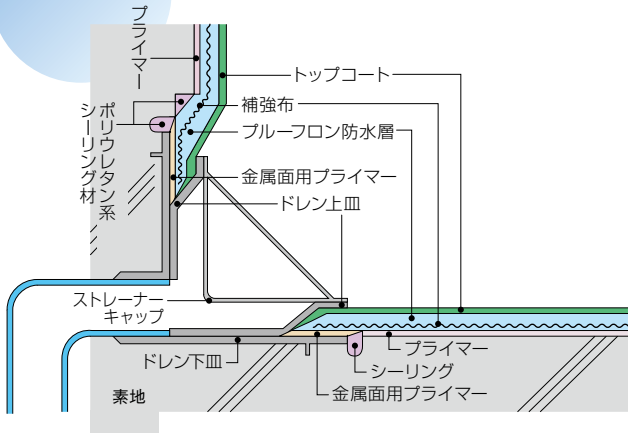
● 改修用ドレンの設置の場合



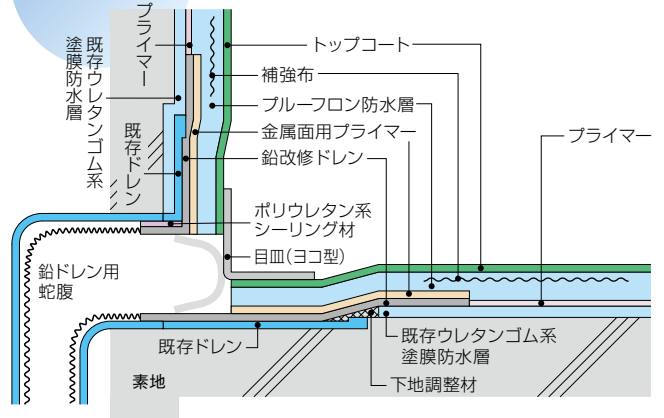
- 改修用ドレンを設置する場合はウレタンゴム系塗膜防水用を使用し、塗りかけ幅を100mm以上確保すること。また、設置に際しては排水面積計算を行い、場合によってはオーバーフロー管の設置等を行う。

■各部位の納まり例②

ドレンまわり(ヨコ引きドレン)

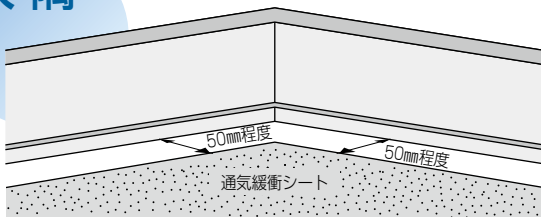


ドレンまわり(ヨコ引き改修ドレン)

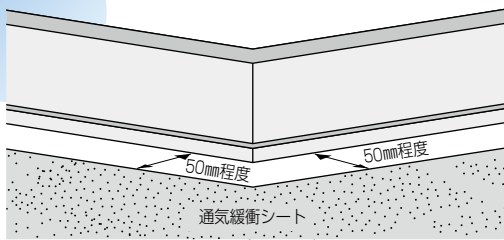


■各部位の納まり例[通気緩衝工法]

入隅

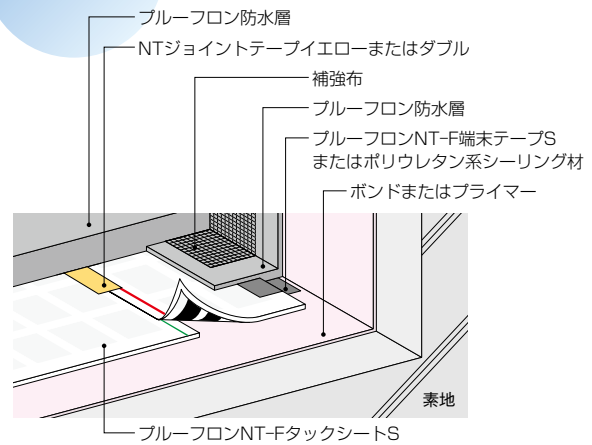


出隅



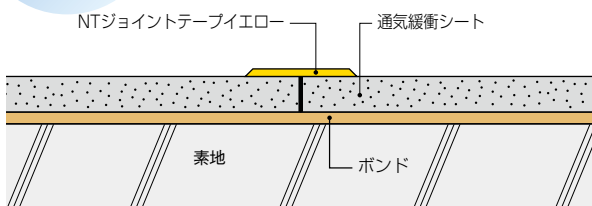
シート間の接続

●ブルーフロンNT-FタックシートSの場合



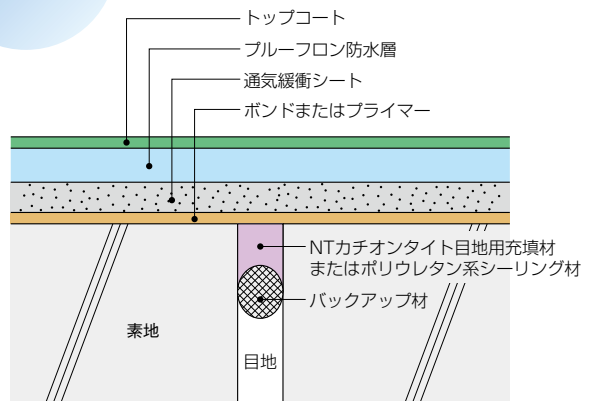
シート間の接続

●ブルーフロンNT-Fシート、ブルーフロンNT-Fシート#2の場合



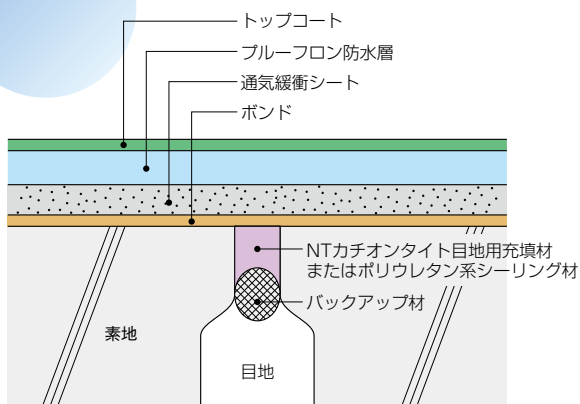
保護モルタル下地

PN工法[通気緩衝工法]

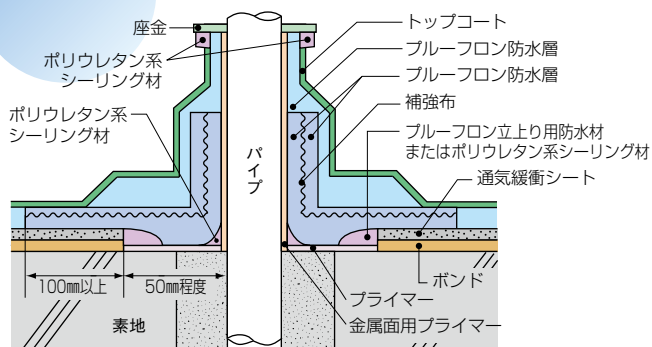


※各部位の納まり図は一般的な例です。すべての施工において適用できるものではありません。

PC板 PN工法 [通気緩衝工法]



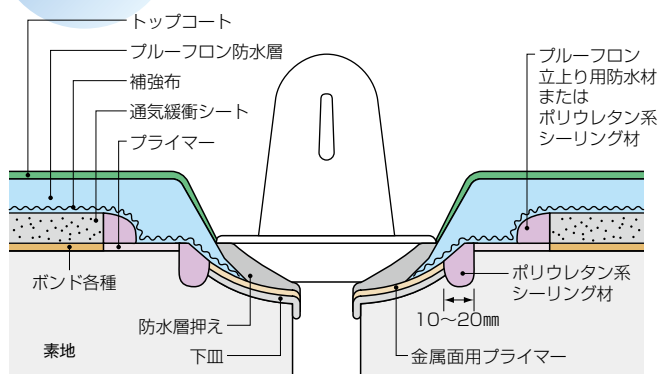
パイプまわり



※各部位の納まり図は一般的な例です。すべての施工において適用できるものではありません。

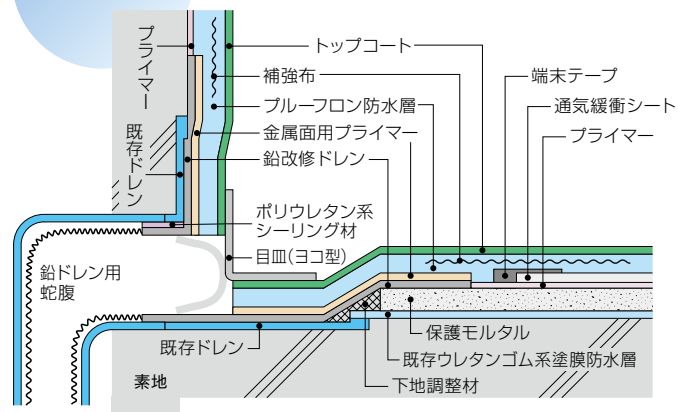
ドレンまわり (タテ引きドレン)

●使用シート：ブルーフロンNT-Fシート、ブルーフロンNT-Fシート#2



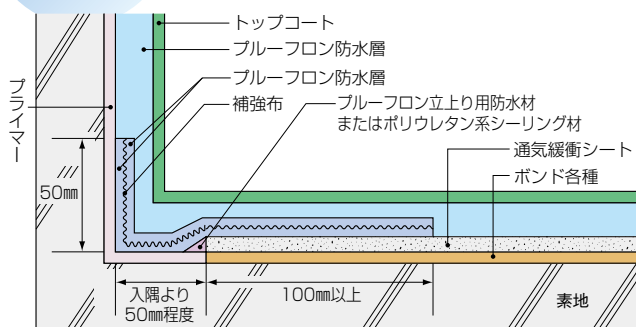
ドレンまわり (ヨコ引き改修ドレン)

立上りアスファルト撤去



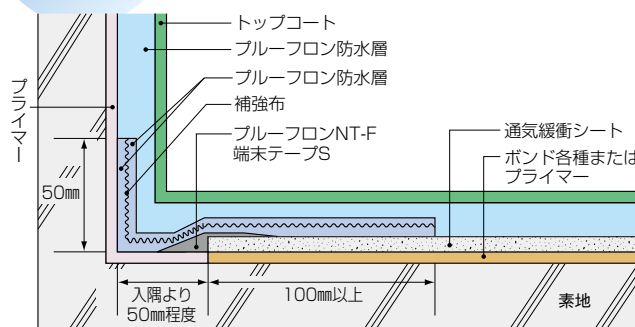
入隅 平場:X-1と立上り:PXTg工法の取り合い

●使用シート：ブルーフロンNT-Fシート、ブルーフロンNT-Fシート#2



入隅 平場:X-1と立上り:PXTg工法の取り合い

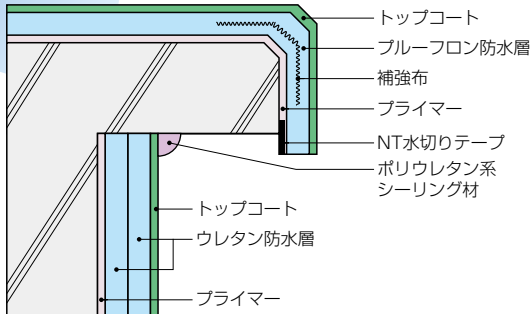
●使用シート：ブルーフロンNT-FタックシートS、ブルーフロンNT-FタックシートS突き付けタイプ、NTタックシートA



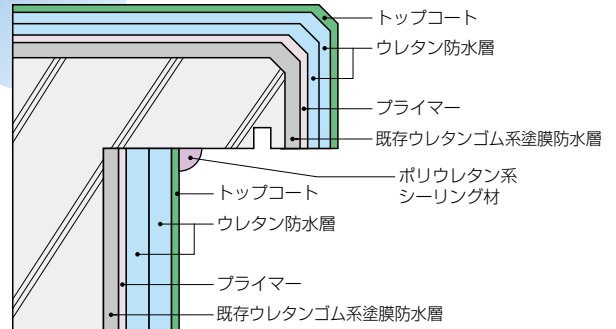
■各部位の納まり例③

※各部位の納まり図は一般的な例です。
すべての施工において適用できるものではありません。

パラペット天端



パラペット天端



■各部位の納まり例 [断熱・遮熱工法]

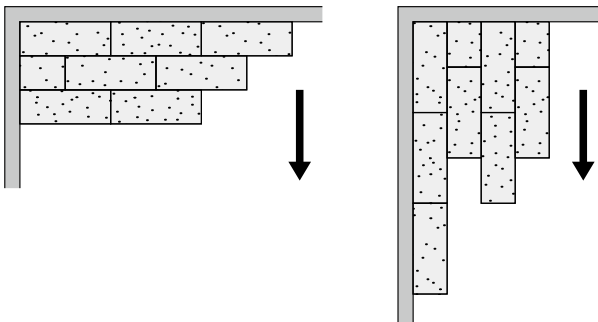
※各部位の納まり図は一般的な例です。
すべての施工において適用できるものではありません。

各種断熱材の敷並べ図

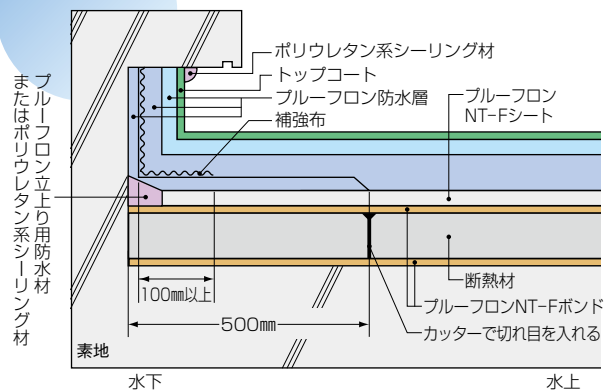
PDI工法 [断熱・遮熱工法]

PKD工法 [機械的固定・断熱・遮熱工法]

※各種硬質断熱材の併せ部は3～5mmの隙間を設けてください。



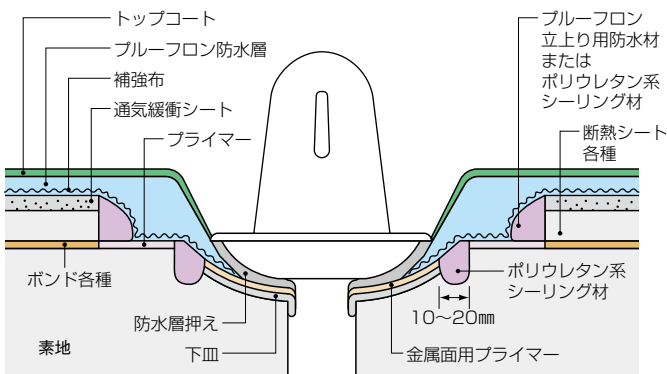
立上り部 PDI工法 [断熱・遮熱工法]



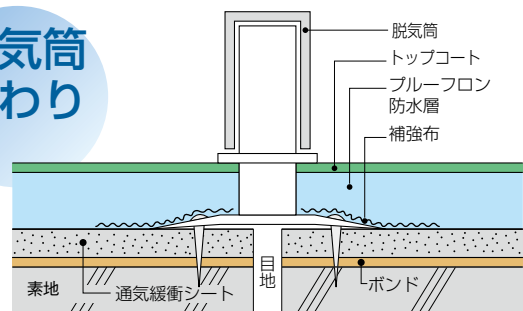
ドレンまわり

PDI工法 [断熱・遮熱工法]

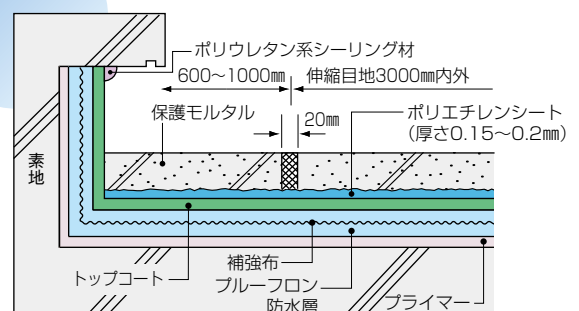
PKD工法 [機械的固定・断熱・遮熱工法]



脱気筒まわり



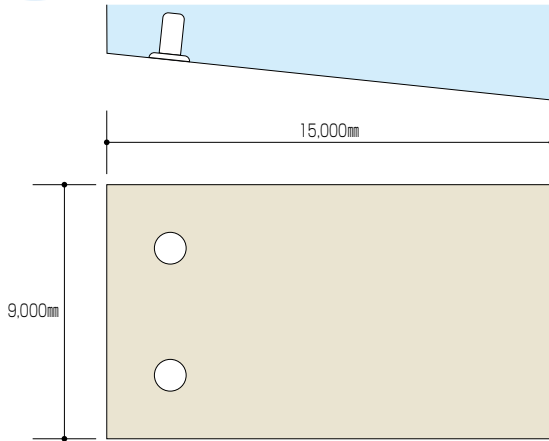
保護モルタル押さえ



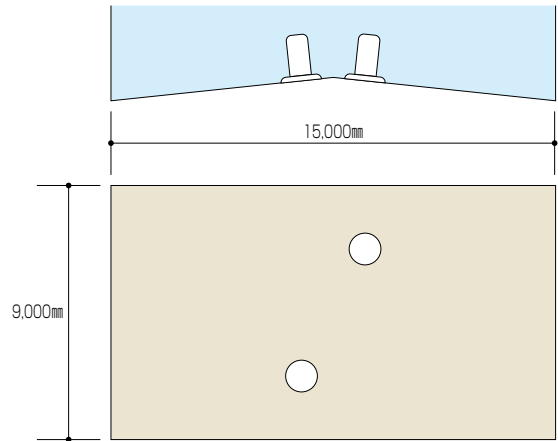
■脱気筒の施工 (防水層50~100㎡に1カ所設置)

脱気筒の設置例 (50~100㎡に1カ所)

■片流れ勾配



■両流れ勾配



■注意事項 ●1日のうちでもっとも長い時間日光の当たる場所の、いちばん高い位置に設置してください。

脱気筒施工の工程

- 1 通気緩衝シートを張ったあと、脱気筒をビスで固定してください。その後、脱気筒の下部全体にプライマーを施工してください。
- 2 脱気筒本体周りを補強布で覆ってください。
- 3 各種の防水施工を行ってください。
- 4 脱気筒と接合する防水層末端部分をシーリング材、ステンレスワッシャーを取り付けてください。
- 5 外筒が回らないように固定しながら、上蓋を締めてください。

PKD、PD工法で断熱材を使用した場合の納まり図(断熱用コアを使用した場合)

■注意事項 ●外筒の取り付け方向に注意し、上蓋を締めながら固定してください。
●各リングの取り付け位置に注意してください。

高品質を裏づける製品基本データ。

プライマー各種

製品名	ブルーフロン プライマーS	ブルーフロン プライマーU	NT エコプライマーU	NT塩ビシート プライマー	ブルーフロン 塗り替え用 プライマー	ブルーフロンエコ 水性プライマー ホワイト	NT水性 塗り替え用 プライマーU	
タイプ	標準タイプ	速乾タイプ 塗り替え用	環境配慮 速乾タイプ	速乾タイプ	速乾タイプ 塗り替え用	環境配慮 水性タイプ	環境配慮 水性タイプ	
樹脂系	ウレタン樹脂系	ウレタン樹脂系	ウレタン樹脂系	ウレタン樹脂系	ウレタン樹脂系	エポキシ樹脂系	ウレタン樹脂系	
	溶剤型1液	溶剤型1液	溶剤型1液	溶剤型1液	溶剤型1液	水性2液	水性2液	
荷姿	16kg、4kg	16kg、4kg	16kg	12kg	12kg	16kgセット (A液8kg・B液8kg)	11kgセット (A液10kg・B液1kg)	
混合比(重量比)	—	—	—	—	—	A:B=1:1	A:B=10:1	
標準塗布量	0.2kg/㎡	0.2kg/㎡	0.2kg/㎡	0.1~0.2kg/㎡	0.1~0.12kg/㎡	0.2kg/㎡	0.1kg/㎡	
可使時間(23℃)	—	—	—	—	—	3時間	3時間	
施工間隔	5~15℃	4~72時間	3~12時間	3~12時間	3~6時間	3~6時間	10~24時間	5~24時間
	15~25℃	3~72時間	2~12時間	2~12時間	2~6時間	2~6時間	4~24時間	4~24時間
	25~35℃	2~72時間	2~12時間	2~12時間	1~6時間	1~6時間	3~24時間	3~24時間

●施工間隔が短かすぎた場合、フクレ、剥離の原因となります。施工間隔があきすぎた場合は必ず艶がなくなるまでサンディング、清掃を行った後に再度プライマーを塗布してください。

【プライマーと下地の適合性】 ◎=適合(原液で使用) ○=適合(シンナーを等倍希釈して使用) ×=使用不可

製品名	ブルーフロン プライマーS	ブルーフロン プライマーU	NT エコプライマーU	NT塩ビシート プライマー	ブルーフロン 塗り替え用 プライマー	ブルーフロンエコ 水性プライマー ホワイト	NT水性 塗り替え用 プライマーU
モルタル、コンクリート	◎	◎	◎	×	×	◎	×
既存ウレタンゴム系 塗膜防水材	○	○	○	×	◎	×	◎(注1)
層間の塗り継ぎ	○	○	○	×	◎	×	×
塩ビシート	×	×	×	◎	×	×	◎(注2)
FRP防水材	×	○	○	×	◎	×	×
エポキシ樹脂塗膜	×	○	○	×	◎	◎	×

●FRP樹脂、エポキシ樹脂は必ず表面のサンディングおよびシンナー拭きが必要になります。

●ブルーフロンプライマーS、ブルーフロンプライマーUの希釈はブルーフロンGRトップシンナーを使用してください。環境配慮仕様はNTエコプライマーUをブルーフロンエコシンナーにて希釈して使用してください(使用量は混合材料で0.1~0.12kg/㎡程度となります)。

※既存塗膜が水性やシルバーの場合、著しく劣化している場合などは別途ご相談ください。

注1:既存ウレタンゴム系塗膜防水材の上塗りが施工してあることが必要です。

注2:トップコート仕上げの仕様は適合ですが、防水材を増し塗りする仕様は使用不可です。

【プライマーと防水材の適合性】

ブルーフロンプライマー各種は、すべてのブルーフロン防水材各種にご使用いただけます。

金属面用プライマー各種

製品名	エポラオールプライマー	エポラ#3プライマー	NT金属用プライマーECO
樹脂系	変性エポキシ樹脂系 弱溶剤型2液	エポキシ樹脂系 溶剤型2液	エポキシ樹脂系 環境配慮溶剤型2液
荷姿	4kgセット (A液3.5kg : B液0.5kg) 16kgセット (A液14kg : B液2kg)	1.1kgセット (A液1.0kg : B液0.1kg) 16.5kgセット (A液15kg : B液1.5kg)	3.3kgセット (A液3kg : B液0.3kg) 16.5kgセット (A液15kg : B液1.5kg)
混合比(重量比)	A液 : B液=7 : 1	A液 : B液=10 : 1	A液 : B液=10 : 1
標準塗布量	0.15kg/m ²	0.15kg/m ²	0.15kg/m ²
希釈シンナー名称と 刷毛、ローラー施工時の 希釈率(セットに対し)	原液にて塗布	エポラ#3シンナー 10~15%	NTエポキシシンナーECO 0~5%
可使時間(23℃)	6時間	6時間	6時間
施工間隔	5~15℃	24~72時間	12~72時間
	15~25℃	6~72時間	6~72時間
	25~35℃	5~72時間	5~72時間

●降雨に曝されたり、施工間隔を超えた場合はブルーフロンプライマーU、ブルーフロンプライマーS、NTエコプライマーUの施工が必要となります。

【金属面用プライマーと下地の適合性】 ○=適合 ×=使用不可

製品名	エポラオールプライマー	エポラ#3プライマー	NT金属用プライマーECO
鋼板	○	×	○
アルミ板	○	○	○
ステンレス板	○	○	○
ガルバリウム鋼板	○	○	○
既存塗膜有(塩ビ系樹脂以外)	○	×	×
鉛	○	○	○
鋳物	○	○	○
ブリキ	○	○	○
銅	○	×	○
垂鉛メッキ鋼板	○	○	○
既存ウレタンゴム系 塗膜防水材	×	×	×

●降雨に曝されたり、施工間隔を超えた場合はブルーフロンプライマーU、ブルーフロンプライマーS、NTエコプライマーUの施工が必要となります。

●フッ素鋼板の場合はメーカー、経過年数、劣化状況により、付着性が異なるため、必ず施工前に付着性試験を行ってください。

【金属面用プライマーと防水材の適合性】 ○=適合 ×=使用不可

製品名	ブルーフロン エコHG	ブルーフロン エコHG MID	ブルーフロン エコDX	ブルーフロン エコONEII	ブルーフロン エコHG NS	ブルーフロン エコDX NS	ブルーフロン エコONE NSII
エポラオールプライマー	○	○	○	○	○	○	○
エポラ#3プライマー	○	○	○	○	○	○	○
NT金属用プライマーECO	○	○	○	○	○	○	○

トップコート各種

【溶剤タイプ】

製品名	ブルーフロン GRトップエコ	ブルーフロン GRトップ遮熱	ブルーフロン GRトップ フッ素
樹脂系	溶剤型2液 アクリルウレタン樹脂系	溶剤型2液 アクリルウレタン樹脂系	溶剤型2液 フッ素樹脂系
備考	環境配慮タイプ 艶あり	遮熱タイプ 艶あり	超高耐候性タイプ 艶あり
荷姿	16kgセット (A液12kg、B液4kg)	18kgセット (A液15kg、B液3kg) 6kgセット (A液5kg、B液1kg)	18kgセット (A液15kg、B液3kg) 6kgセット (A液5kg、B液1kg)
混合比(重量比)	A液：B液=3：1	A液：B液=5：1	A液：B液=5：1
標準塗布量	0.2kg/㎡	0.2kg/㎡	0.2kg/㎡
希釈率(セットに対して)	無希釈	0～20%	0～20%
可使時間(23℃)	3時間以内	4時間以内	4時間以内
歩行可能時間(23℃)	24時間以上	24時間以上	24時間以上
硬化促進剤	●ブルーフロン溶剤系トップコート硬化促進剤 ●溶剤トップ硬化促進剤×5		

※2回塗りする場合の標準塗布量は、0.15kg/㎡×2回となります。

製品名	ブルーフロン GRトップ	ユータックFT	ブルーフロン EGトップSi
樹脂系	溶剤型2液 アクリルウレタン樹脂系	溶剤型2液 アクリルウレタン樹脂系	溶剤型2液 シリコン樹脂系
備考	標準タイプ 艶あり	標準タイプ 艶あり	高耐候性、環境配慮タイプ 艶あり
荷姿	18kgセット (A液15kg、B液3kg) 6kgセット (A液5kg、B液1kg)	18kgセット (A液15kg、B液3kg) 6kgセット (A液5kg、B液1kg)	15kgセット (A液9kg、B液6kg)
混合比(重量比)	A液：B液=5：1	A液：B液=5：1	A液：B液=3：2
標準塗布量	0.2kg/㎡	0.2kg/㎡	0.2kg/㎡
希釈率(セットに対して)	0～20%	0～20%	無希釈
可使時間(23℃)	4時間以内	4時間以内	4時間以内
歩行可能時間(23℃)	24時間以上	24時間以上	24時間以上
硬化促進剤	●ブルーフロン溶剤系トップコート硬化促進剤 ●溶剤トップ硬化促進剤×5		不要

※2回塗りする場合の標準塗布量は、0.15kg/㎡×2回となります。

※ブルーフロンEGトップSiは他のトップコートと比較し、硬化が遅いため、養生テープなどは施工しながら取り除いてください。翌日以降に養生テープを剥がすと、端末からの剥離が生じやすいため、ご注意ください。冬場などで粘度が高い場合はブルーフロンエコシンナーにて希釈を行ってください(塗料用シンナーAでは溶解しません)。

●ブルーフロン溶剤系トップコート硬化促進剤

(各14kg、16kg、18kgセットに対する各温度と添加量の概要)

気温	添加量	なし				
		100g	200g	300g	400g	
5℃	軽歩行可能時間	24時間	16時間	12時間	8時間	6時間
	可使時間	12時間	10時間	8時間	6時間	4時間
15℃	軽歩行可能時間	9時間	8時間	6時間	5時間	4時間
	可使時間	8時間	6時間	4時間	3.5時間	3時間
25℃	軽歩行可能時間	6時間	5時間	4時間	3時間	2時間
	可使時間	4時間	3.5時間	3時間	2時間	1時間
35℃	軽歩行可能時間	4時間	3時間	2時間	1.8時間	1.5時間
	可使時間	3時間	2時間	1時間	50分	40分

※硬化を速くさせる場合の目安として使用ください。また、硬化促進剤は、塗料にたいして、充分な攪拌を行ってからご使用ください。

※軽歩行可能時間は、塗装時、塗装後の環境条件により変わることがありますので、参考値としてください。

●溶剤トップ硬化促進剤×5

(各14kg、16kg、18kgセットに対する各温度と推奨添加量)

気温	添加量	なし					
		36g	72g	108g	144g	180g	
5℃	軽歩行可能時間	24時間	16時間	9時間	7時間	6時間	5時間
	可使時間	12時間	10時間	8時間	6時間	5時間	4時間
10℃	軽歩行可能時間	16時間	9時間	8時間	6時間	5時間	4時間
	可使時間	10時間	8時間	7時間	5時間	4時間	3時間
15℃	軽歩行可能時間	9時間	7時間	6時間	5時間	4時間	—
	可使時間	8時間	6時間	5時間	3.5時間	3時間	—
25℃	軽歩行可能時間	6時間	5時間	4時間	—	—	—
	可使時間	4時間	3.5時間	3時間	—	—	—

※網掛け部分は、各温度での推奨添加量です。

※気温25℃以下の条件下で、塗装後の結露、夜露などが想定される場合の白化対策にご使用ください。

※気温25℃以上の条件下では、可使時間が短くなるため使用しないでください。

※軽歩行可能時間は、塗装時、塗装後の環境条件により変わることがありますので、参考値としてください。

※硬化促進剤は、塗料に対して、充分な攪拌を行ってからご使用ください。

【水性タイプ】

製品名	ブルーフロンエコ 水性GRトップ遮熱※1	ブルーフロンエコ 水性GRトップ※1	ブルーフロンエコ 水性トップ※2
樹脂系	水性2液 水性アクリルウレタン 樹脂系	水性2液 水性アクリルウレタン 樹脂系	水性1液、 無機質系骨材入り 水性アクリル樹脂系
備考	環境配慮遮熱タイプ 艶あり	環境配慮タイプ 艶あり	環境配慮タイプ 艶消し骨材入り
荷姿	11kgセット (A液10kg、B液1kg)	11kgセット (A液10kg、B液1kg)	18kg
混合比(重量比)	A液:B液=10:1	A液:B液=10:1	—
希釈率(セットに対して)	0~2%	0~2%	0~30%
標準塗布量	0.2kg/㎡	0.2kg/㎡	0.35kg/㎡×2回
可使時間(23℃)	1時間以内	1時間以内	—
歩行可能時間(23℃)	24時間以上	24時間以上	24時間以上

※1：ブルーフロンエコ水性GRトップ遮熱、ブルーフロンエコ水性GRトップの場合、施工後の補修、タッチアップは指触乾燥後24時間以内(23℃)に行ってください。それ以上施工間隔があいた場合は付着力が弱くなるため、別途プライマーが必要となります。

※2：ブルーフロンエコ水性トップは、必ずプライマーが必要となります。下表を参照してください。

【ブルーフロンエコHGとトップコートの適合表】 ○=適合 ×=使用不可

製品名	ブルーフロンエコHG	ブルーフロンエコHG MID	ブルーフロンエコHG NS
ブルーフロンGRトップエコ	○	○	○
ブルーフロンEGトップSi	○	○	○
ブルーフロンEGトップ4F	×	×	×
ブルーフロンEGトップ4F遮熱	×	×	×
ブルーフロンエコ水性GRトップ	○	○	○
ブルーフロンエコ水性GRトップ遮熱	○	○	○
ブルーフロンGRトップ	○	○	○
ブルーフロンGRトップ遮熱	○	○	○
ブルーフロンGRトップフッ素	○	○	○
ブルーフロンエコ水性トップ	○※	○※	○※
ブルーフロン水性上塗シルバー	×	×	×

※ブルーフロン塗り替え用プライマーもしくは、ブルーフロンプライマーUをブルーフロンGRトップシンナーで倍希釈したものを施工し、6時間以内に乾燥していることを確認してから該当のトップコートを施工してください(環境配慮仕様の場合は、NTエコプライマーUをブルーフロンエコシンナーで倍希釈したものを使用してください)。

【防滑材の重量比に対する混入比】

製品名	ブルーフロン EGトップSi	ブルーフロン GRトップ エコ	ブルーフロン GRトップ 遮熱	ブルーフロン GRトップ フッ素	ブルーフロン GRトップ	ユータック FT	ブルーフロンエコ 水性GRトップ 遮熱	ブルーフロンエコ 水性GRトップ
エストップ#20	3~5%	3~5%	3~5%	3~5%	3~5%	3~5%	3~5%	3~5%
NTマイクロ骨材	2%	2%	2%	2%	2%	2%	2%	2%



ブルーフロントップコート各種
2回塗りの場合の塗装間隔

【ブルーフロンエコHG、ブルーフロンエコHG NS、ブルーフロンエコHG MIDへのブルーフロンエコDX・エコHG共用硬化促進剤の添加量】

●冬型硬化剤を使用した場合

硬化促進剤の添加量 (20kgセットに対して)	気温	可使時間	次工程までの時間
添加剤なし	10℃	45分	34~72時間
	15℃	40分	24~72時間
	20℃	35分	20~72時間
0.06kg	5℃	30分	22~72時間
	10℃	25分	18~72時間
	15℃	20分	16~72時間
	20℃	15分	12~72時間
0.12kg	5℃	25分	18~72時間
	10℃	20分	14~72時間
	15℃	15分	10~72時間
0.18kg	5℃	15分	16~72時間

●夏型硬化剤を使用した場合

硬化促進剤の添加量 (20kgセットに対して)	気温	可使時間	次工程までの時間
添加剤なし	15℃	50分	26~72時間
	20℃	40分	24~72時間
	25℃	35分	20~72時間
0.06kg	15℃	30分	20~72時間
	20℃	25分	18~72時間
	25℃	20分	14~72時間
0.12kg	15℃	20分	18~72時間
	20℃	15分	16~72時間

【ブルーフロンエコHGと各種防水層との適合性】 ○=適合 ×=不適:層間にプライマーが必要です。

●ブルーフロンエコHGが上層となる場合

上層 \ 下層	ブルーフロンエコHG	ブルーフロンエコDX	ブルーフロンエコONEII	ブルーフロンエコ	ブルーフロンバリュー
ブルーフロンエコHG	○	○	○	×	×

●ブルーフロンエコHGが下層となる場合

下層 \ 上層	ブルーフロンエコHG	ブルーフロンエコDX	ブルーフロンエコONEII	ブルーフロンエコ	ブルーフロンバリュー
ブルーフロンエコHG	○	○	○	×	×

※各々の防水材に立上り用(NSタイプ)を含みます。ブルーフロンエコにはブルーフロンエコMIDも含みます。
 ×の場合は、ブルーフロン塗り替え用プライマーもしくは、ブルーフロンプライマーUをブルーフロンGRトップシンナーで倍希釈したものを施工し、6時間以内に乾燥していることを確認してから該当の防水層を施工してください(環境配慮仕様の場合は、NTエコプライマーUをブルーフロンエコシンナーで倍希釈したものを使用してください)。

ブルーフロン通気緩衝シート各種

製品名	ブルーフロン NT-FタックシートS	NTタックシートA	ブルーフロン NT-Fシート	ブルーフロン NT-Fシート#2	ブルーフロン NT-Fシート#2(フィルム付き)	
組成	自着層付き不織布改質 アスファルト積層シート	自着層付きガラス繊維ブチルゴム 積層シート、突き付けタイプ	発泡ポリエチレン サンドシート	ポリエチレン不織布シート	ポリエチレン不織布シート (フィルム付き)	
寸法	幅1.04m×長さ15.7m/巻	幅1.0m×長さ10m/巻	幅1.15m×長さ30m/巻	幅1.0m×長さ25m/巻	幅1.0m×長さ25m/巻	
厚さ(平均)	1.5mm	1.5mm	3.0mm	1.4mm	1.4mm	
引張強度	縦	226N/cm	1,817N/cm	320N/5cm	578N/5cm	1,220N/5cm
	横	103N/cm	1,830N/cm	161N/5cm	549N/5cm	1,180N/5cm
伸び	縦	5%	357%*	26%	69%	74%
	横	5%	475%*	26%	71%	61%
ジョイントテープ の種類	NTジョイントテープイエロー ブルーフロンNT-F端末テープS NTジョイントテープダブル	NTジョイントテープイエロー ブルーフロンNT-F端末テープS NTジョイントテープダブル	NTジョイントテープイエロー NTジョイントテープダブル	NTジョイントテープイエロー NTジョイントテープダブル	NTジョイントテープイエロー NTジョイントテープダブル	

●いずれの物性値も代表値であり、保証値ではありません。 ●ブルーフロンNT-FタックシートS(突き付けタイプ)は幅1m×長さ15mの寸法となります。
※ゴム層単体の伸び率

【接着剤(ボンドとプライマー)の塗布方法】

製品名	成分	標準塗布量	塗布 部位	塗装方法	シート張りまでの施工間隔 (23℃)
ブルーフロンNT-Fボンド	クロロプレンゴム系	0.6~0.8kg/m ² (下地0.3kg、シート0.3kg)	両面	ローラー、刷毛	20分~8時間
ブルーフロンNT-F水性ボンド	水性エマルジョン樹脂系	0.3~0.6kg/m ²	片面	クシゴテ、ローラー	直ちに(0分~20分)
ブルーフロンNT-FエコボンドH	環境配慮型1液湿気硬化ウレタン樹脂系	0.3~0.6kg/m ²	片面	専用クシゴテ	直ちに(0分~20分)
ブルーフロンプライマーS	1液湿気硬化溶剤ウレタン樹脂系	0.2kg/m ²	片面	ローラー、刷毛	3時間~72時間
ブルーフロンプライマーU	1液湿気硬化溶剤ウレタン樹脂系	0.2kg/m ²	片面	ローラー、刷毛	2時間~12時間
NTエコプライマーU	環境配慮型1液湿気硬化溶剤ウレタン樹脂系	0.2kg/m ²	片面	ローラー、刷毛	2時間~12時間
ブルーフロンエコ水性プライマーホワイト	環境配慮型2液水性エポキシ樹脂系	0.2kg/m ²	片面	ローラー、刷毛	4時間~24時間

【接着用ボンドとプライマーの通気緩衝シートとの適合性】 ○=適合 ×=使用不可

製品名	ブルーフロン NT-FタックシートS	ブルーフロン NT-Fシート	ブルーフロン NT-Fシート#2
ブルーフロンNT-Fボンド	○*	○	○
ブルーフロンNT-F水性ボンド	×	○	○
ブルーフロンNT-FエコボンドH	×	○	○
ブルーフロンプライマーS	○	×	×
ブルーフロンプライマーU	○	×	×
NTエコプライマーU	○	×	×
ブルーフロンエコ水性プライマーホワイト	○	×	×

●ブルーフロンNT-Fシート#2(フィルム付き)はブルーフロンNT-Fシート#2と同じ適応になります。
※ブルーフロンNT-FボンドをブルーフロンNT-FタックシートSに使用する場合、ボンドは下地(片面)のみに塗布してください。

ブルーフロンシリーズ製品一覧①

品種	品名	荷姿	成分、組成、用途、特徴	F☆☆☆☆ 登録番号	特化則 非該当※	
下 地 処 理 材	NTカチオンタイトF	20kgセット (パウダー:16kg、 硬化液:4kg)	カチオン系ラテックスモルタル樹脂系	—	○	
	NTカチオンタイト目地用充填材	6kg	NTカチオンタイトF用ガラス発泡骨材 (通気緩衝工法専用コンクリート目地処理材)	—	○	
	NTカチオンフィラー	30kgセット(主材:20kg、硬化液:10kg)	セメント・ポリマー複合型 カチオンセメント	—	○	
	ブルーフロンAS活性材N	20kg	溶剤アスファルト樹脂系 露出アスファルト防水面改修用	—	—	
	NTミラクルフィラー	20kgセット (A液:4kg、B液:4kg、 パウダー:12kg)	エポキシ樹脂セメント系 下地処理兼用プライマー	N03179	○	
	NTカチオンエース	20kg	セメント・ポリマー複合型カチオンセメント JIS A 6916 下地調整塗材C-1・C-2認証	N03202	○	
	NTエポキシ速乾フィラー	34kgセット (主材:4kg、硬化剤:4kg、 パウダー:26kg(13kg×2袋))	エポキシ樹脂セメント系 速乾型	—	○	
	ブルーフロン断熱フィラー	18kg	セメント・ポリマー複合型カチオンセメント 断熱タイプ	—	○	
	NT吸水調整剤	18kg	エチレン酢酸ビニル重合体エマルジョン セメント系下地調整材用吸水調整剤	—	○	
仮防水材	ブルーフロンアクア	20kgセット (混和液:12kg、 パウダー:8kg)	ポリマーセメント系塗膜防水材	N03195	○	
プ ラ イ マ ー 金 属 面 用	溶 剤 系	エポラオールプライマー	16kgセット(A液:14kg、B液:2kg) 4kgセット(A液:3.5kg、B液:0.5kg)	2液弱溶剤変性エポキシ樹脂系 鉄部、非鉄金属用	N03251	▲
		エポラ#3プライマー	16.5kgセット(A液:15kg、B液:1.5kg) 1.1kgセット(A液:1kg、B液:0.1kg)	2液溶剤エポキシ樹脂系 非鉄金属用	N03188	▲
		NT金属用プライマー ECO	16.5kgセット(A液:15kg、B液:1.5kg) 3.3kgセット(A液:3kg、B液:0.3kg)	2液溶剤エポキシ樹脂系 鉄部、非鉄金属用	N03256	○
プ ラ イ マ ー	溶 剤 系	ブルーフロンプライマーS	16kg、4kg	湿気硬化型1液溶剤ウレタン樹脂系 モルタル・コンクリート・層間塗継ぎ用 浸透タイプ	N03121	▲
		ブルーフロンプライマーU	16kg、4kg	湿気硬化型1液溶剤ウレタン樹脂系 モルタル・コンクリート・層間塗継ぎ用 速乾タイプ	N03124	▲
		NTエコプライマーU	16kg	湿気硬化型1液溶剤ウレタン樹脂系 モルタル・コンクリート・層間塗継ぎ用 速乾タイプ	JIS K 5970認証	○
		NT塩ビシートプライマー	12kg	湿気硬化型1液溶剤ウレタン樹脂系 塩ビシート用 速乾タイプ	N03253	▲
		ブルーフロン塗り替え用プライマー	12kg	湿気硬化型1液溶剤ウレタン樹脂系 層間プライマー 速乾タイプ	N03219	▲
		NTゴムシートバインダー	6kgセット(A液:4kg、B液:2kg)	2液溶剤エポキシ樹脂系 加硫ゴムシート用	—	○
	水 系	ブルーフロンエコ水性プライマーホワイト	16kgセット(A液:8kg、B液:8kg)	2液水性エポキシ樹脂系 モルタル・コンクリート用	N03138	○
NT水性塗り替え用プライマーU		11kgセット(A液:10kg、B液:1kg)	2液水性ウレタン樹脂系 既存ウレタン塗膜防水用 塩ビシートトップコート用	N03258	○	

※:○=特化則非該当製品:特定化学物質障害予防規則に該当しない製品。▲=エチルベンゼンを含有しているため、屋内で使用する場合は特定化学物質障害予防規則の対象となります。

品種	品名	荷姿	成分、組成、用途、特徴	F☆☆☆☆ 登録番号	特化則 非該当※		
ウレタン 塗膜防水材	平場用	ブルーフロンエコHG	20kgセット(主剤:8kg、硬化剤:12kg) ペール缶および角缶対応	JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高伸長形 平場用 認証 2液ウレタン樹脂	N03261	○	
		ブルーフロンエコDX	18kgセット(主剤:6kg、硬化剤:12kg) ペール缶および角缶対応	JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高伸長形 平場用 認証 2液ウレタン樹脂	N03248	○	
		ブルーフロンエコONEII	18kg、9kg 角缶	JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高伸長形 平場用 認証 1液ウレタン樹脂	N03266	○	
	立上り用	中粘度	ブルーフロンエコHG MID	20kgセット(主剤:8kg、硬化剤:12kg) ペール缶および角缶対応	JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高伸長形 平場用 認証 2液ウレタン樹脂	N03274	○
			ブルーフロンエコHG NS	20kgセット(主剤:8kg、硬化剤:12kg) ペール缶および角缶対応	JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高伸長形 立上がり用 認証 2液ウレタン樹脂	N03260	○
		ブルーフロンエコDX NS	18kgセット(主剤:6kg、硬化剤:12kg) ペール缶および角缶対応	JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高伸長形 立上がり用 認証 2液ウレタン樹脂	N03249	○	
ブルーフロンエコONE NSII	9kg 角缶	JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高伸長形 立上がり用 認証 1液ウレタン樹脂	N03271	○			
超速硬化 ウレタン 吹付け材	NTスプレー タイプS	390kgセット (A液:182kg、B液:200kg、 トナー:8kg) 35kgセット (A液:16.4kg、B液:18kg、 トナー:0.6kg)	JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系 高強度および高伸長形 共用 認証 2液ウレタン樹脂(トナー着色) 超速硬化タイプ 専用機械使用	N03218	○		
	NTスプレー タイプH	390kgセット (A液:182kg、B液:200kg、 トナー:8kg) 35kgセット (A液:16.4kg、B液:18kg、 トナー:0.6kg)	JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高強度形 共用 認証 2液ウレタン樹脂(トナー着色) 超速硬化タイプ 専用機械使用	N03220	○		
	NTスプレー タイプU	410kgセット(A液:210kg、B液:200kg) 41kgセット(A液:21kg、B液:20kg)	2液ウレア樹脂 超速硬化タイプ 専用機械使用	N03250	○		
ウレタン系 保護材	ユータックFエコ	20kgセット(A液:10kg、B液:10kg)	JIS K 5970建築用床塗料 認証 2液ウレタン樹脂系保護材	JIS K 5970認証	—		
トップコート	溶剤系	ブルーフロンEGトップSi	15kgセット(A液:9kg、B液:6kg)	2液溶剤アクリルシリコン樹脂系 艶あり	N03267	○	
		ブルーフロンGRトップエコ	16kgセット(A液:12kg、B液:4kg)	2液溶剤アクリルウレタン樹脂系 艶あり	N03210	○	
		ブルーフロンGRトップ遮熱	18kgセット(A液:15kg、B液:3kg) 6kgセット(A液:5kg、B液:1kg)	2液溶剤アクリルウレタン樹脂系 艶あり、遮熱タイプ	—	▲	
		ブルーフロンGRトップ フッ素	18kgセット(A液:15kg、B液:3kg) 6kgセット(A液:5kg、B液:1kg)	2液溶剤フッ素樹脂系 艶あり	N03183	▲	
		ブルーフロンGRトップ	18kgセット(A液:15kg、B液:3kg) 6kgセット(A液:5kg、B液:1kg)	2液溶剤アクリルウレタン樹脂系 艶あり	N03122	▲	
		ユータックFT	18kgセット(A液:15kg、B液:3kg) 6kgセット(A液:5kg、B液:1kg)	JIS K 5970建築用床塗料 認証 2液溶剤アクリルウレタン樹脂系 艶あり	JIS K 5970認証	▲	
	水系	ブルーフロンエコ水性GRトップ遮熱	11kgセット(A液:10kg、B液:1kg)	2液水性アクリルウレタン樹脂系 艶あり、遮熱タイプ	—	○	
		ブルーフロンエコ水性GRトップ	11kgセット(A液:10kg、B液:1kg)	2液水性アクリルウレタン樹脂系 艶あり	N03182	○	
		ブルーフロンエコ水性トップ	18kg	1液水性アクリルエマルジョン樹脂系 (無機質系骨材入り) 艶消し、防滑タイプ	N03145	○	
粘度調整・ 洗浄液	ブルーフロンエコシンナー	16ℓ	溶剤系プライマー、ウレタン防水材、 ウレタン系保護材、溶剤系トップコート用	—	○		
	ブルーフロンGRトップシンナー	16ℓ・4ℓ	ブルーフロンGRトップ各種、ユータックFT用	—	▲		

※:○=特化則非該当製品:特定化学物質障害予防規則に該当しない製品。▲=エチルベンゼンを含有しているため、屋内で使用する場合は特定化学物質障害予防規則の対象となります。

ブルーフロンシリーズ製品一覧②

品種	品名	荷姿	成分、組成、用途、特徴	F☆☆☆☆ 登録番号	特化則 非該当※
補強布	ガラスクロスCAG60	幅1.04m×長さ100m/巻	ガラス繊維織布	—	○
	ガラスクロスCAG45	幅1.0m×長さ100m/巻	ガラス繊維織布	—	○
	ブルーフロンアクアクロス	幅1.04m×長さ100m/巻	ガラス繊維補強ビニロン系不織布 ソフトタイプ	—	○
	ブルーフロンソフトクロス	幅1.0m×長さ50m/巻	ポリエステル繊維織布 ソフトタイプ	—	○
	ブルーフロン補強テープVS	幅10cm×長さ50m/巻 幅14cm×長さ50m/巻 幅20cm×長さ50m/巻 幅30cm×長さ50m/巻 幅50cm×長さ50m/巻	ポリエステル繊維織布 ソフトタイプのり付き	—	○
通気緩衝 シート	ブルーフロンNT-FタックシートS	厚さ1.5mm×幅1.04m×長さ15.7m/巻 (15㎡分)	ガラス繊維強化改質アスファルト積層シート 自着層付き、重ね張りタイプ	—	○
	ブルーフロンNT-FタックシートS 突き付けタイプ	厚さ1.5mm×幅1.0m×長さ15m/巻 (15㎡分)	ガラス繊維強化改質アスファルト積層シート 自着層付き、突き付けタイプ	—	○
	NTタックシートA	厚さ1.5mm×幅1.0m×長さ10m/巻 (10㎡分)	ガラス繊維 プルゴム積層シート 自着層付き、突き付けタイプ	—	○
	ブルーフロンNT-Fシート	厚さ3.0mm×幅1.15m×長さ30m/巻 (34.5㎡分)	ポリエチレン繊維 + 発泡ポリエチレン 突き付けタイプ	—	○
	ブルーフロンNT-Fシート#2	厚さ1.4mm×幅1.0m×長さ25m/巻 (25㎡分)	ポリエチレン繊維 突き付けタイプ	—	○
	ブルーフロンNT-Fシート#2 (フィルム付き)	厚さ1.4mm×幅1.0m×長さ25m/巻 (25㎡分)	ポリエステルフィルム付きポリエチレン繊維 突き付けタイプ	—	○
ボンド 通気緩衝 シート用	溶剤系 ブルーフロンNT-Fボンド	15kg	クロロプレンゴム樹脂系 両面タイプ	○	○
	無溶剤系 ブルーフロンNT-FエコボンドH	10kg(クシゴテ付き)	1液無溶剤ウレタン樹脂系 片面タイプ	N03184	○
	水系 ブルーフロンNT-F水性ボンド	18kg	水性アクリルエマルジョン樹脂系 片面タイプ	N03203	○
補助剤	ブルーフロンエコDX・エコHG 共用硬化促進剤	1kg	防水層用硬化促進剤 ブルーフロンエコDX、エコDX NS・エコHG、 エコHG NSに使用	—	○
	ブルーフロンエコONEⅡ 硬化促進剤	4kg、1kg	防水層用硬化促進剤 ブルーフロンエコONEⅡ、エコONE NSⅡに使用	—	○
	ブルーフロン溶剤系トップコート 硬化促進剤	1kg	2液溶剤トップコート用硬化促進剤	—	—
	溶剤トップ硬化促進剤×5	1kg	2液溶剤トップコート用硬化促進剤 冬期専用	—	○
	エストップ#20	1.2kg(0.6kg×2袋)、1.2kg	防滑仕上げ用軽量チップ トップコートの防滑用	—	○
	NTマイクロ骨材	1kg	防滑仕上げ用軽量骨材 トップコートの防滑用	—	○
	PSパウダー	16kg(4kg×4袋入り)	素地調整 兼 置換泡、膨れ抑制用 添加骨材	—	○

※：○=特化則非該当製品：特定化学物質障害予防規則に該当しない製品。▲=エチルベンゼンを含有しているため、屋内で使用の場合は特定化学物質障害予防規則の対象となります。

品種	品名	荷姿	成分、組成、用途、特徴	F☆☆☆☆ 登録番号	特化則 非該当※
副資材	NTジョイントテープイエロー	幅50mm×長さ50m/巻 1本単位	PET製テープ 全ての通気緩衝シートのジョイント処理用テープ	—	○
	NTジョイントテープダブル	幅90mm×長さ50m/巻 1本単位	補強布付きPET製テープ 全ての通気緩衝シートのジョイント処理用テープ	—	○
	ブルーフロンNT-F端末テープS	幅75mm×長さ25m/巻 1本単位	ブチルゴム製粘着層付き緩衝用テープ ブルーフロンNT-FタックシートS用端末処理用テープ	—	○
	NTブチルテープ	幅50mm×長さ20m/巻 幅100mm×長さ20m/巻 各1本単位	ブチルゴム製粘着層付きテープ 緩衝用テープ	—	○
	NT水切りテープ	幅50mm×長さ50m/巻 1本単位	ガラス繊維テープ パラベットアゴ用切りテープ	—	○
	アルミキャント40	幅30-40-30mm長さ2m×厚さ0.8mm、 10本/箱(10穴/本)	入隅用押さえアルミ金具 機械固定用	—	○
	端末プレート	幅30mm×長さ2m×厚さ3.3mm 20本/箱 (5穴/本)	端末用押さえアルミ金具 機械固定用	—	○
	キャントプレートアンカー 40	つば13mm×長さ40mm 500本/箱	アルミ製アンカー アルミキャント用	—	○
	メカニカルアンカー 40	つば30mm×長さ40mm 500本/箱	アルミ製アンカー 機械固定用	—	○
	メカニカルアンカー 70	つば30mm×長さ70mm 500本/箱	アルミ製アンカー 機械固定用	—	○
	メカニカルアンカー 100	つば30mm×長さ100mm 500本/箱(受注生産)	アルミ製アンカー 機械固定用	—	○
	ダモ脱気筒一般用(丸型)	台座φ190×194mm φ90×高さ194mm 2個/箱	耐蝕ステンレス製 脱気装置	—	○
	断熱用コア(ダモ脱気筒用)	台座140×140×高さ140mm 2個/箱	耐蝕ステンレス製 断熱用コア	—	○
	鉛改修ドレン	1個単位 (別紙:ブルーフロン製品一覧をご参照ください)	鉛製改修ドレン 縦、横引き共通	—	○
	鉛ドレン用蛇腹	1個単位 (別紙:ブルーフロン製品一覧をご参照ください)	塩ビ製蛇腹 締め付けバンド付き	—	○
	ウレタン改修ドレン タテ型(非鉛)	2個/箱 (別紙:ブルーフロン製品一覧をご参照ください)	アルミとウレタンゴムの複合材 縦引き用	—	○
	ウレタン改修ドレン ヨコ型(非鉛)	2個/箱 (別紙:ブルーフロン製品一覧をご参照ください)	アルミとウレタンゴムの複合材 横引き用	—	○
	目皿	(別紙:ブルーフロン製品一覧をご参照ください)	アルミ合金ダイカスト製 タテ型、ヨコ型	—	○
	ブルーフロン断熱材	(別紙:ブルーフロン製品一覧をご参照ください)	発泡ポリエチレンフォーム 軟質断熱材、断熱工法用シート	—	○
	ブルーフロン硬質断熱材	(別紙:ブルーフロン製品一覧をご参照ください)	発泡ポリウレタンフォーム 硬質断熱材、断熱工法用シート	—	○
ブルーフロン硬質断熱材AL	(別紙:ブルーフロン製品一覧をご参照ください)	発泡ポリウレタンフォーム 両面アルミ被覆硬質断熱材、断熱工法用シート	—	○	

※:○=特化則非該当製品:特定化学物質障害予防規則に該当しない製品。▲=エチルベンゼンを含有しているため、屋内で使用する場合は特定化学物質障害予防規則の対象となります。

ブルーフロンシリーズの施工上の注意事項

■下地条件・処理について

- 現場打ちのコンクリートは、設計基準強度を満たしていることが条件です。
- コンクリート打設後の降雨などで強度が著しく低下している場合は、ハツリ撤去のうえコンクリートを打ち直すなどの処置をして強度を復旧させてください。
- 下地が十分に乾燥していることを確認してください。
- コンクリート打設後の養生は充分に行ってください。
 - ・コンクリートの場合の目安……夏期(打設後3週間以上)、冬期(打設後4週間以上)
 - ・モルタルの場合の目安……夏期(打設後2週間以上)、冬期(打設後3週間以上)
- ※デッキプレートなどに打設した場合は乾燥が遅れますので、さらに乾燥養生が必要となります。
- 高圧水洗浄後は十分に乾燥させてください。また、保護モルタル仕様の場合、押さえコンクリート内に残留水分があるため冬期の施工では特に注意してください。
- PC板など下地コンクリートが緻密な場合、プライマーの含浸が少なく付着性が悪い場合があります。可能な場合はポリッシャーや機械研削を行ってください。
- 平場のコンクリートは平滑で、浮き、レイタンスなどの脆弱部および突起物などの欠陥がない良好な下地であることを確認してください。
- 立上りは、凹凸の少ない平滑面とし、凹凸や不具合も平場と同様の処置を行ってください。また、立上り端部および軒先部の水切りを良くし、雨仕舞いの納まりを確認してください。
- ポリマーセメントモルタルを使用する場合は、プライマーの塗布やウレタン塗膜の硬化収縮による破壊・剥離に耐え得るよう、高い付着強度と耐溶剤性を有する材料(NTカチオンシリーズなど)を使用してください。
- NTカチオンフィラーやNTエポキシフィラーなどの施工時にコンクリートやモルタルで吸い込みが激しい場合は、NT吸水調整剤もしくは水打ちを行い、吸水調整を行ってから施工してください。
- フィラー関係のコテ施工では、コテ圧をかけて下地に擦り込むように塗り付けてください。ローラーの場合は、ムラなく施工してください。仕上り材の種類によっては金コテ押さえなどを行ってください。
- 下地は清掃を入念に行い、プライマーやボンドの接着の妨げとなる塵埃、油脂、汚れ、サビなどが無いことを確認してください。
- 防水を施工する下地は、水勾配が適切に確保され、速やかに排水されていることを確認してください。施工による勾配調整はできないため、必要に応じて排水処理を施してください。施工後に水たまりがで

- ると、塗膜の白化、艶引け、損傷、剥離などの不具合が発生する場合があります。
- 水勾配は1/100以上とします(望ましくは1/50~1/20)。
- 既存塗膜および下地に藻類・かびの発生がある場合には、完全に除去してください。付着力の低下につながります。藻類・かびの除去に薬剤を使用した場合は、完全に洗い流してください。塗膜の付着力や変色など耐久性に影響します。
- 被塗面の洗浄やエフロッセンスの除去に酸性洗浄剤・アルカリ性洗浄剤などの薬剤を用いた場合、薬剤洗浄後の水洗は、高圧水洗機もしくはブラシなどを用いて入念に行ってください。薬剤が被塗面に残存したまま施工すると防水塗膜の縮み、白化、剥離を引き起こす恐れがあります。
- 高圧水洗浄ができない場合はホースで水を流しながらブラシなどを使用し、塵や埃、かび、藻類などを完全に除去してください。
- 出入隅の形状は、入隅は通り良く直角に、出隅は通り良くR面や45°面で5mm程度以上(推奨値15~30mm程度)の面取りで仕上げてください。
- 立上り端部や軒先部の納まりは水切りが良好であることを確認してください。
- 防水層に支障のあるひび割れ・打ち継ぎに適切な処理を行ってください。
- 下地の1.0mm未満の小さいひび割れは、ポリウレタン系シーリング材やブルーフロン防水材(立上り用)を擦りこんでください。ただし、通気緩衝シート仕様を採用する場合は除きます。
- 1.0mm以上のひび割れはUカットしてポリウレタン系シーリング材もしくはブルーフロン防水材(立上り用)を充填し、各種補強布(ガラスクロスCAG60、ガラスクロスCAG45、ブルーフロン補強テープVSなど)を用いて補強塗りなどを行ってください。
- 誘発目地・化粧目地にはあらかじめポリウレタン系シーリング材を充填しておき、補強布の増し張りを実施してください。ただし、通気緩衝シート仕様を採用する場合はこの限りではありません。
- 伸縮目地の旧目地材は撤去して、適切な処理を行ってください。
- 化粧目地に大きな段差や凹凸がある場合はサンダーで削るか、NTカチオンシリーズなどのポリマーセメントモルタルで埋めてください。
- 化粧目地には、ポリウレタン系シーリング材やNTカチオンシリーズなどのポリマーセメントモルタルを充填し平滑にしてください。
- 下地の動きにより防水層にひび割れが入る場合がありますので、事前に構造などについて施工依頼者様

- と打ち合わせて仕様決定をしてください。
- 防水材を施工する金属部分は、汚れ・油脂類・サビなどを除去し、脱脂処理した後、各種金属用プライマー(エポラオールプライマー、エポラ#3プライマー、NT金属用プライマーECOなど)を施工してください。
- 金属部分とモルタル部との取り合い部分は、Uカットをしてハツリ、ポリウレタン系シーリング材を充填してください。ウレタン塗膜防水材が掛かる部分は目粗し研磨(サンドペーパー#100程度またはサンダー掛け)を行い、脱脂後、各種金属プライマーを施工してください。
- 固定の金属などは、固定不良がないことを確認し、挙動が大きいのと思われる箇所については、絶縁処理もしくは補強布による増し張りを行ってください。
- 金物関連の取り合いで適切な雨仕舞ができることが必要です。適切な処理を行ってください。
- 金属貫通パイプの場合は、100mm位までサビなどを除去し、各種金属用プライマー(エポラオールプライマー、エポラ#3プライマー、NT金属用プライマーECOなど)を使用してください。樹脂パイプの場合は、目粗しを行い専用プライマーを使用してください。
- 配管及び配線が防水施工に支障がないことを確認してください。
- 設備配管・スリーブ・取付金具などは、所定の位置に堅固に固定されていることを確認してください。
- ドレンやその周りの泥土やゴミ、藻類、植物などは、防水施工時は完全に除去してください。
- ドレン部は、増し塗りしても排水できるように低めに勾配をつけてください。また、ドレン廻りの勾配が悪い場合は速やかに排水されるよう処置を行ってください。
- 改修用ドレンはウレタン塗膜防水用を使用し、塗りかけ幅を100mm以上確保してください。
- 設備関連のコンクリートの基礎は原則「躯体一体型」とし、防水層の上に乗せることは極力避けてください。
- コンクリート架台の下部に隙間がある場合はシーリングの充填を行ってください。
- 劣化しているシーリング材は撤去し、打替えを行ってください。
- 防水層に影響しないように、シーリング材の種別選択は適切に行ってください。
- 防水層端末・金物の取り合いなど、必要に応じて適切にシーリングが施工されていることを確認してください。

■各工法の注意事項

■共通

- 各工法の使用量は表記以外にも変更可能です。
- 気温5℃以下、40℃以上、湿度85%以上の場合での施工は避けてください。
- 施工当日から施工後翌日までに降雨、降雪、降霜など天候不良が予想される場合での施工は避けてください。未乾燥状態で降雨や夜露などにあたると艶引けや白化、フクレ、付着不良などの原因につながります。特に冬季は、乾燥に時間がかかりますので乾燥までの時間を考慮して作業を終了してください。気温が5℃以上でも、気温が低い場合は塗膜の乾燥に時間がかかりますので施工間隔が変わりますので充分注意してください(27ページをご参照ください)。
- 下地のレイタンス、砂、ほこり、ゴミは完全に取除いてください。
- トップコートは25、26ページの適合一覧表をご参照ください。
- プライマーは下地の状況に応じて選定してください(23、24ページの適合表をご参照ください)。

- 特化則非該当・環境配慮仕様にする場合は、特化則対応・環境配慮品のプライマー、ボンド、トップコートをご使用ください。塗料の希釈は、専用希釈剤(シンナー)をご使用ください。
- 下地に巣穴がある場合はピンホールが発生する場合があります。適切な下地処理を行ってください。
- 防水層施工において、ピンホールや穴抜け跡がある場合は、同種のウレタンゴム系塗膜防水材にて埋めてください。
- 必要に応じ、脱気装置の設置を行ってください。
- 作業手順は標準仕様書をご参照ください。
- 入隅や出隅などの各部位の処理、通気緩衝シートの張り方や脱気筒の取り付けにつきましては17~22ページをご参照ください。また、公共建築工事共通仕様書やJASS8、ウレタン塗膜防水ハンドブック(日本ウレタン建材工業会)なども併せてご参照ください。
- 通気緩衝工法関係(PN工法・PSN工法)
- ブルーフロンNT-Fシート、ブルーフロンNT-Fシート#2は張り付けの際、降雨や夜露にあうとシート

- は水分を含みます。必ずウレタンゴム系塗膜防水材1層目を施工し、雨仕舞いを行ったうえで作業を終了してください。また、ブルーフロンNT-FタックシートS、ブルーフロンNT-Fシート#2(フィルム付き)、NTタックシートAについてもシート端部の雨仕舞いを行ってください。
- ブルーフロンNT-FタックシートS、ブルーフロンNT-Fシート#2(フィルム付き)は、張り付け後、次工程までの施工間隔が長くあいた場合、紫外線によりシート表層のコーティング接着層が劣化する場合があります。
- ブルーフロンNT-FタックシートSの重ね部は赤いラインが上となります。
- 隣り合うシートは短手のジョイントの位置を揃えないようにすらししてください。
- ブルーフロンNT-FタックシートSやNTタックシートAは張り付け後、浮かないようにするために転圧ローラーにて充分転圧してください。
- 通気緩衝シートは、浮きやシワがなく、また、シート

間の隙間が大きにならないように施工してください。

- 各種通気緩衝材は直射日光を避け、雨や雪などにより水に濡れない涼しい場所に立てて保管してください。特にブルーフロンNT-FタックシートSやNTタックシートAIは、横倒しにして保管すると跡がついたり通気層がつぶれたりする場合があります。

■機械固定工法関係(PK工法・PKD工法)

- ブルーフロンNT-FタックシートSの重ね部は赤いラインが上となります。
- 下地や既存防水層の厚み等により、使用するアンカーの長さを選定してください。
- 下地の状態やALC下地の場合など、現地で測定したメカニカルアンカーの引き抜き強度が充分でない場合は別途、最寄りの営業所へお問い合わせください。
- アンカーの穿孔は、適切な径や深さに垂直になるように行い、その時に発生する切粉は掃除機などで除去してください。
- PK工法はメカニカルアンカーを用いた特殊な工法となります。防水層が薄い場合、メカニカルアンカーの跡が目立ちやすいため、防水層の膜厚は3mm厚以上を必ず確保してください。
- メカニカルアンカーの取り付け方法についてはブルーフロンシリーズ総合カタログをご参照ください。
- 機械的固定工法はプライマーや接着剤を用いてシートを全面に貼り付けることなく、着層の付着とアンカーを用いて躯体コンクリートに連結する工法です。このため、防水層が浮いている状況となる場合

があります。これはフクレとは異なるため防水機能上
に問題はありせん。

■断熱工法関係(PD工法・PKD工法)

- ステンレス脱気筒は、専用コア(別売り)が必要となる場合があります(詳細は最寄りの営業所へお問い合わせください)。
- トップコートは遮熱タイプをご使用ください。
- ブルーフロンGRトップ遮熱の淡彩色(ライトグレー、ライトグリーン、ライトブルー、ホワイト)を選定した場合、隠ぺい性確保のため2回塗りとなる場合があります。
- 断熱工法を施工する場合、夜間の気温が下がる時季は結露が生じる可能性があります。特にトップコート施工は早めに行い、夜間までの養生時間を長くとってください。
- PKD工法の場合、下地や断熱材、シートの厚みなどを考慮して、使用するアンカーの長さを選定してください。
- PKD工法は、PK工法の注意事項も参照ください。

■改修工法について

- 改修工事の場合、既存防水材の状況を確認し、適切な工法を選択してください。
- 既存ウレタンゴム系塗膜防水材の改修時は、トップコートの種類によっては溶剤などの影響により既存塗膜を侵しリフティング(塗膜のチヂレ)やフクレが発生する場合があります。また、付着やフクレの状況によっては、既存塗膜の上に施工できない場合が

あります(既存塗膜を剥離する必要がある場合があります)。既存塗膜を必ず確認のうえ施工仕様を決定してください。詳しくは、最寄りの営業所にお問い合わせください。

■遮熱工法について

- 遮熱トップコートの希釈量や材料の使用量が多すぎたり、少なすぎたりしても、色相が変化して見えることがあります。特に上塗の使用量が不足していた場合、色相が変化して見えます。また、遮熱性能や耐候性が低下することもありますので、仕様を厳守して施工してください。
- 遮熱塗料性能は、明度と色相により変わります。既存塗膜の色が塗り替え予定の色より薄い場合、遮熱効果が得られない場合があります。詳しくは、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 建物の形状、構造、基材(素材)や既存塗膜の明度と色相によっては十分な遮熱効果が得られず室内温度低減効果が期待できない場合があります。詳しくは、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 遮熱塗料の全面施工と部分施工では遮熱効果が異なります。部分施工では未塗装部分が影響し遮熱効果が得られない可能性がありますので、ご不明な点がございましたら、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 遮熱塗料では、特殊顔料を使用していますので、経年劣化による褪色の傾向が一般塗料と異なる場合があります。

■製品の仕様・調合・施工に関わる注意事項

- 塗料の調合、施工間隔、可使時間、使用量など塗装仕様は守って施工してください。なお、可使時間や施工間隔は、気温や材料温度に起因し変わります。夏場は特に短くなりますのでご注意ください。
- 施工時の気温を確認し、施工可能な温度領域にあった塗料や硬化剤を選択し、適切な施工環境を確保してください。低温の場合、硬化反応が進まず塗膜硬度発現の低下など塗膜物性の低下や外観不良が発生します。高温の場合は、可使時間が短くなり硬化が速くなるため、レベリング不良や泡抜け痕の発生など仕上り異常が発生する場合があります。
- 塗料は必ず、指定材料を使用し秤を用いて塗装仕様の規定配合比で調合して十分に攪拌後施工してください。他の塗料や水、アルコールとの混合は絶対に行わないでください。
- 塗装仕様の使用量が塗られていない場合、本来の塗膜性能が発揮されない場合があります。決められた使用量を必ず守ってください。
- ブルーフロンエコHGやエコHG NS、ブルーフロンエコHG MIDはブルーフロンエコDX、エコDX NS、ブルーフロンエコONE II、エコONE NS II、NTスプレー各種以外の防水材とは直接付着しませんのでご注意ください。
- ブルーフロンパリュウやブルーフロンエコをブルーフロンエコHGと併用する場合は、層間でプライマーが必要となります。27ページをご参照ください。
- 塗料を調合する際は、あらかじめ塗料を均一になるように攪拌してから、秤を用いて計量、塗料の調合を行ってください。小分けして使用する際も同様に行ってください。
- 塗料の種類に合わせて、適切な攪拌機を選定してください。ウレタンゴム系塗膜防水材の攪拌は出力の大きい攪拌機を低速にして泡を巻き込まないように攪拌してください。回転数が速かったり、攪拌時間が長いと泡を巻き込み、泡跡やピンホールの発生など仕上りが悪くなる場合があります。羽の形状によっても泡の発生につながります。
- 主剤と硬化剤、A液とB液、硬化促進剤など複数の材料を混合攪拌する際、容器の隅や底、側面にある材料が混合されていない場合があります。混合が不完全なまま材料をかき出して使用した場合、硬化不良

- や硬化速度の差が発生します。硬化促進剤の混合不良は、2層目の防水材やトップコートの施工でフクレやチヂレが発生する可能性があります。混合攪拌は注意して行ってください。
- 一度調合した塗料は必ず可使時間内に使い切るようにしてください。可使時間を過ぎた塗料の使用は行わないでください。作業性、付着力の低下や仕上りなどが悪くなります。
- 塗料の過剰希釈は硬化不良や硬度低下、仕上り不良などが発生しやすく、正常な塗膜物性が得られず耐久性に影響します。規定内の希釈量で施工してください。
- 計量・混合攪拌する作業場所は養生シートを敷き、施工面に材料がこぼれないようにしてください。硬化不良や仕上り不良につながりますので、こぼれた場合は直ちに除去してください。
- 2液ウレタン塗膜防水材は、混合した後は直ちに施工面に塗面積に対して適切な量を流し、塗り広げてください。缶中にて放置していると発熱反応により缶中の温度が上昇し可使時間が短くなります。
- 材料を混合した缶などは使いまわしをしないでください。混合の都度、新品を用いるか、洗浄を行った後に使用してください(反応硬化が進んだ材料と混入した場合は、フクレが生じることがあります)。
- プライマーは各種選択可能です。下地の状況に応じてプライマーを選定してください。
- プライマーは塗り残しのないように施工してください。風化面、吸込みの多い下地の場合には、プライマーを増し塗りしてください。
- プライマーは下地の状況により、使用量が規定量以上になる場合があります。プライマーの使用量は濡れ色になるまでを目安としてください。
- プライマーやトップコートなどは、一度に厚塗りせず、たまりがでないように施工してください。一度に厚塗りすると塗膜のフクレや発泡の原因になります。また、たまりができる剥離の原因になります。
- 各工程において硬化が不充分的状態で次工程の施工をすると再溶解やリフティング(塗膜のチヂレ)が発生する場合があります。硬化乾燥していることを確認してから次工程へ進めてください。

- プライマー施工後、次工程までの施工間隔を過ぎた場合、付着不良の原因となります。特に夏場は施工間隔が短くなります。施工間隔を過ぎた場合、プライマー表面を十分に研磨し、シンナー拭き後、プライマーを施工してください。
- プライマーの施工後に水分に曝された場合、プライマー表面を艶が無くなるまで研磨、清掃後、再度、プライマーを施工してください。
- ウレタンゴム系塗膜防水材の施工後に水分に曝された場合、施工する表面をよく清掃し、シンナー拭き後に次の工程を行ってください。
- ウレタンゴム系塗膜防水材の2層目の施工までの施工間隔が長い場合は、施工する表面をよく清掃し、シンナー拭き後に次の工程を行ってください。その場合は、「NTエコプライマーU」を「ブルーフロンエコシンナー」にて倍希釈したもの、もしくは、「ブルーフロン塗り替え用プライマー」の塗布を行ってから次工程へ進めてください。
- トップコートの施工後に水分に曝された場合、シンナー拭き後、再度、トップコートを施工してください。
- 下地に勾配がある場合、施工した塗料が流れたり、硬化途中で塗膜のスレやシワが発生したりする場合があります。勾配がある面に施工する場合は、グレ止め剤(ミルコンなど)などを使用して流れないように粘度調整を行ってください。また、ブルーフロンエコHGとブルーフロンエコHG NSを混合して粘度調整することも可能です。
- トップコートは色相によっては2回塗りでは隠ぺいしない場合があります。その場合は、一度に多くの使用量で施工せず、施工回数を増やしてください。
- 艶を調整した製品は、下地の状態や希釈量、施工間隔、膜厚、塗り重ねによりムラが生じることがあります。実際に希望している艶と異なる場合がありますので、必ず艶を確認して、施工条件をなるべく同一条件にして施工してください。
- 艶有の防滑仕上げにおいて、防滑骨材の量や骨材の頭出しと使用量により部分的に仕上り差を感じる場合があります。ご注意ください。
- 塗料は用途・用法を守り、カタログの仕様や注意事項をよくお読みになり正しくご使用ください。

■「ブルーフロン防水工法」をご採用いただいたお施主様へ（取り扱いとメンテナンスのお願い）

■ウレタンゴム系塗膜防水材ご使用上の注意事項

- 防水層は可燃物ですので、火気は絶対に使用しないでください。また、煙草の吸殻の投げ捨てや花火なども厳禁です。
- 防水層の上に灯油や溶剤、不凍液などをこぼした際は直ちに除去してください。防水層が軟化し、フクレや剥離が生じます。
- 防水層の上に人工芝を施工することはお勧めいたしません。ご使用になる場合は「置き式」の方法をとってください。
- 防水層の上で重い箱などを引きずったり、角の鉄材などの損傷を与える物を落としたりしないでください。防水層の剥離や損傷を受けず。
- 防水層の上では、防水層を損傷する恐れのある履物（ハイヒールやスパイクシューズなど）での歩行はしないでください。
- 防水層の上に椅子やテーブルなどを置く場合、脚をゴムキャップなどで保護してください。また、長期間にわたる重量物を設置する場合は養生ゴム板（3mm程度）や角を丸くしたベニア板などを下に敷いてください。同様に高熱を発生する器具や物などを直接

- 設置しないでください。また、カッターなどの鋭利なもので傷をつけないでください。
- 防水層の上でゴルフの練習や一輪車、ローラースケートなどの練習はやめてください。クラブや車輪で防水層を傷つける恐れがあります。
- 防水層の一般的な汚れの清掃の際は中性洗剤（クレンザーは不可）を使用の上、モップなどで行ってください。また、清掃の際には水で濡れていますので、スリップなどによる転倒事故に充分注意してください。
- 防水層の上に醤油や酢などをこぼした場合は床面に染みつきやすいので、直ちに拭き取って水洗いを行ってください。
- 防水層の上にマジックインキなどの油性筆記具で書かないでください（防水層面に染みつきやすく取れません）。また、防水層の上では塗料や強いアルカリ性や酸性の薬剤、洗剤は使用しないでください。
- 防水層の上で動物を飼育しないでください。
- クーリングタワーの防藻剤や殺菌剤などの種類によっては、防水層に損傷を与えますので注意してください。
- 防滑工法は防滑を保証するものではありません。塗

- 膜表面に水たまりがある場合には滑ることがありますのでご注意ください。
- 防滑工法では転倒時に擦り傷など思わぬケガをする場合があります。ご使用の際は十分に気を付けてください。
- メンテナンスのお願い
- 防水層に苔・草などを生やさないようにしてください。
- 防水層の一般的な汚れの清掃の際は中性洗剤（クレンザーは不可）を使用の上、モップなどで行ってください。また、清掃の際には水で濡れていますので、スリップなどによる転倒事故に充分注意してください。
- 側溝、ドレン周辺に土砂等が蓄積しないよう、定期的に取り除いてください。
- 防水層の端末・排水ドレン周辺は、定期的に点検を実施し、異常があった場合はご相談ください。
- 防水層の仕上げ塗料は、定期的な塗り替えをお勧めします。
- 防水層の点検・補修・仕上げ塗料の再施工を行う場合は、専門業者へ依頼してください（有償）。

取り扱い注意事項

（安全衛生上の注意事項）

- 本来の用途以外に使用しないでください。
- 火気のある所では、絶対に使用しないでください。
- 火花を発生しない工具を使用してください。
- 万一、火災が発生した場合はABC粉末消火器など適切な手段を用いてください。水は使用しないでください。
- 溶剤系塗料のうち、一部屋内の使用においては特定化学物質障害予防規則の対象となります。その場合は、同規則に従い作業主任者を選任するなどの法令遵守をお願いします。
- 施工中、乾燥中ともに換気を充分に行い、ミストや蒸気、ガスを吸い込まないようにしてください。
- 安全衛生上の観点から、取り扱い中は皮膚に触れないようにし、有機溶剤の蒸気を吸わないよう適切な保護手袋、有機ガス用防毒マスク、防じんマスク、保護眼鏡、保護面、保護衣などの防護具を着用してください。
- 取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがいを充分に行ってください。
- 材料が手についた場合、多量の水と石鹸で洗ってください。
- 材料が皮膚に付着し、痛みや外観変化があるときは医師の診察を受けてください。
- 蒸気やガス、粉じんを吸い込んで気分が悪くなった場合は、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 目に入った場合は、多量の水で注意深く洗ってください。また、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外してください。そして、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 取り扱い中、容器からこぼれないように注意してください。こぼれた場合は直ちに布やウエスで拭き取るか、砂などを散布した後、適切な処理をしてください。
- 材料の付着した布やウエスなどは自然発火や引火の危険性があるため、廃棄するまで水につけておいてください。
- 容器（取っ手を含む）はつり上げないでください。止むを得ずつり上げるときには、適切なつり具で垂直に持ち上げ、落下に充分注意してください。偏荷重になると取っ手が外れ、落下する危険性があります。
- 本製品の保管は必ずフタをし、雨露や直射日光の当たらない、換気の良い場所で保管してください。夏季に車内での保管や高温になる場所での保管は危険ですので避けてください。
- 保管は5℃～40℃の屋内で貯蔵してください。50℃以上の温度に曝露しないでください。各種フィラーや水系塗料は凍結を避けてください。
- NTカチオンエースやNTカチオンタイトF主材、NTカチオンフィラー主材、NTエポキシ速乾フィラーパウダーは水硬化性です。保管には十分に注意し、地面に長い間放置したり、雨に当てたりすることは避けてください。また、長期にわたる在庫も避けてください。一度開封した粉体は充分に密閉し、湿気の影響を受けないように保管してください。
- ウレタン樹脂系のプライマーやウレタン防水主材、ブルーフロンエコONE II、ブルーフロンエコONE NS II、各種B液は水分と反応し固まります。保管中や休憩中は必ずフタをしてください。
- 材料の保管は、施設して子供の手の届かないところに保管してください。
- 中身を使いきってから廃棄してください。また、洗浄液・廃液・汚泥などは関係法令に基づき、自社で適切に処理するか、産業廃棄物処理業者に委託して処理してください。
- 施工具や塗料容器を廃棄するときは、産業廃棄物として処理してください。
- 標準色以外をご指定された場合、褪色が速い場合や塗膜性能が低下する可能性があります。
- 環境配慮製品は、環境に配慮した材料を用いていますが、ご使用していただいたすべての人の健康状態を保証するものではありません。
- 本製品は揮発性の化学物質（有機溶剤など）を含有し臭気が発生します。あらかじめ元請や施主、近隣住民への説明を行い、了解を得てください。臭気が周辺にある物に付着する場合があります。付着が予想されるものは、施工箇所からできるだけ遠ざけ、屋内に揮発成分が流入しないように養生を行ってください。また、化学物質過敏症やアレルギー体質の方がいる場合には本製品との接触や施工を避けてください。
- 本製品は危険物です。消防法や労働安全衛生法などの適用法令に従ってご使用及び保管してください。また、輸送時も消防法や道路運送車両法、船舶安全法、港則法など各種法令を遵守してください。
- 本製品の取り扱い、保管については、労働安全衛生法など各種法令を遵守してください。
- 製品をご使用の際は、必ず、警告ラベル、安全データシート（SDS）をご参照ください。

* 製品改良のため、仕様などを予告なしに変更することもあります。ご了承ください。

【その他、ご不明な点がございましたら、最寄りの営業所へお問い合わせください】

日本特殊塗料株式会社

■代理店

■お問い合わせ先

- 東京営業所 〒114-8584 東京都北区王子3-23-2 ☎(03)3913-6203 FAX(03)3913-6323
- 神奈川営業所 〒254-8503 神奈川県平塚市長瀬1-10 ☎(0463)23-2135 FAX(0463)23-3739
- 中部営業所 〒472-0006 愛知県知立市山町東並木北12 ☎(0566)81-8111 FAX(0566)81-8124
- 大阪営業所 〒565-0853 大阪府吹田市春日1-4-12 ☎(06)6386-8492 FAX(06)6338-3560
- 中四国営業所 〒739-0025 広島県東広島市西条中央4-3-13 ☎(082)423-8231 FAX(082)423-8256
- 九州営業所 〒849-0112 佐賀県三養基郡みやき町江口4726 ☎(0942)89-5766 FAX(0942)89-5762

●日本特殊塗料ホームページ <https://www.nttoroyo.co.jp/>